週刊 YEAR BOOK

1926
昭和元年

日録20世紀

6|23
平成10年6月23日発行
(毎週1回発行)第2巻第23号
¥560
講談社

大正天皇崩御と“元号誤報”

中庭つき「同潤会アパート」のハイカラ生活
軍隊内の差別糾弾闘争と「福岡連隊事件」
“永遠の恋人”ルドルフ・ヴァレンチノ急死!

▶大正天皇は明治一二年八月三一日生まれ。明治天皇の第三皇子で、母は柳原愛子。明治二二年立太子。三三年九条節子(貞明皇后)と結婚。四五年七月三〇日、明治天皇の崩御により皇位を継承、大正四年、京都で即位礼。

◎表紙 ルドルフ・ヴァレンチノ最後の作品となった「熱砂の舞」。相手役はヴィルマ・バンキー。1926年封切。 Mary Evans Picture Library デジタルハウス

「大正」から「昭和」へ 空白の数時間に起きた〝元号誤報〟騒動

大正天皇崩御と「光文」スクープ事件!

元号の「昭和」は、中国の『書経』にある「百姓昭明 万邦協和」から取ったもので、国民の幸福と平和を願う意味があるという。大正一五年一二月、大正天皇崩御の後のわずかな時間に、新元号をめぐる、あるスクープがあった。大手新聞社が社運を賭けた〝幻の特ダネ〟とは?

激しい取材合戦の中 天皇崩御、大正に幕

「天皇陛下には、今二五日午前一時二五分、葉山御用邸において崩御あらせらる」

宮内省の杉琢磨内蔵頭が、一〇月頃から気管支炎にかかって体調を崩されていた天皇嘉仁(四七)の崩御を発表したのは、大正一五年一二月二五日午前二時四〇分。その瞬間、御用邸内の会見場に駆けつけていた二〇〇人近い記者が息を呑み、部屋全体が水を打ったような静寂におおわれた。中には、ペンを持つ手がわなわなと震えたり、その場にへたりこむ記者の姿もあった。

宮内省が、神奈川県葉山の御用邸にこもっていた天皇の「御不例(ご病気)」を発表したのは一二月一五日。この前後から、ご病状の一進一退をめぐり、葉山を舞台にした新聞社の激しい取材合戦は始まっていた。特ダネをつかもうと、魚屋に化けて御用邸の台所に入りこんだり、縁の下にもぐりこんでは番犬に追いたてられ、はたまた釣り客をよそおい、望遠鏡で邸内をのぞきこむ記者まで現れる始末だった。「東京日日新聞」(現・毎日新聞)の記者だった藤樫準二氏は、戦後になって、当時の様子を次のように振り返

東京日日新聞

大正十五年十二月廿五日 (土曜日)

東京日日新聞發行所

號外

聖上崩御

天皇陛下には廿五日午前一時二十五分崩御あらせられたる旨宮内省から發表された

新帝踐祚

御用邸御坐所において

天皇陛下崩御あらせられたるにつき皇室典範第十條の明文により皇嗣たる皇太子裕仁親王殿下には同時刻を以て直ちに葉山御用邸なる御座所に於て踐祚あらせられ祖宗傳承の神器を承け皇位を繼承あらせられた

天皇崩ずる時は皇嗣即ち踐祚し祖宗の神器を承く

元號は「光文」

樞密院に御諮詢

元號制定に關しては樞密院に御諮詢あり同院において愼重審議の結果「光文」「大治」「弘文」等の諸案中左の如く決定するてあらう

「光文」

▲天皇の崩御を伝える、大正15年12月25日付「東京日日新聞」号外。「元号は『光文』」と、はっきり書かれている。

「写真通信」

▶天皇の病気が発表され、御用邸のある葉山はあわただしさを増した。写真は一二月一八日、参殿のため、逗子の養神亭を出発する大臣たち。

「大正」から「昭和」へ
空白の数時間に起きた〝元号誤報〟騒動

大正天皇崩御と「光文」スクープ事件!

▶天皇崩御が伝えられた12月25日、街頭での喪章売り。腕章は1本8銭〜50銭が標準の値段だった。

っている。

「葉山へは地方部長の指揮のもとに社会部、政治部のデスク以下、二十数名の特派員が出張して民家を一軒借りて電話を急設するやら、夜具ふとんを運搬するやらのテンヤワンヤ。宮内省へは六名、加入新聞通信社が一三社、一社の応援記者が大体七、八名という陣容だったが、容体の悪化につれて増員。運動部、学芸部、地方部員までがかり出された」（「サンデー毎日」昭和三六年四月二日号）

報道陣が二〇〇人以上押しかけ、取材合戦を繰り広げていた一二月二三日に天皇の容体は急変、二四日に危篤の発表があり、各社が東京と葉山との電話をつなぎっぱなしにして待機していた二五日、ついに崩御の発表が行なわれた。

崩御から二時間後、皇太子裕仁親王（二五）が、葉山御用邸の御座所で「剣璽渡御の儀」を行った。大正一〇年から摂政をつとめ、病弱な天皇に代わって公務をはたしてきた裕仁親王が「践祚」して、第一二四代の天皇位についたのだった。

大手新聞社は、二五日のうちに次のような号外を出している。

「聖上御容体、肺炎の御症状昨朝より一段御増進、御体温は四一度まで御昇騰あらせられ、御脈はますます御頻数御細小とならせられ、御呼吸は更に逼迫あそばされ、遂に二五日午前一時二五分、心臓麻痺により崩御あらせらる。真に恐懼の至りに堪へず」（「東京朝日新聞」一二月二五日）

崩御のニュースが伝わると街は哀悼一色、高島屋呉服店や松坂屋などは「奉悼の意を表し、二五日に謹て休業仕候」と社告を新聞に掲載。多くの市民が宮城前に詰めかけた。

「光文」の大スクープ一転して〝大誤報〟に

ところが、一斉に配られた号外の中で、ひときわ異彩を放つ新聞があった。他社を圧倒する〝特ダネ〟を掲載していた「東京日日新聞」である。

「元号制定に関しては枢密院に御諮詢あり同院において慎重審議の結果『光文』『大治』『弘文』等の諸案中左の如く決定するであろう『光文』」

崩御から約二時間後の午前三時半頃に発行された同社の号外は、早くも新元号を「光文」と明言していたのだ。続いて、「報知新聞」も「光文」と発表する。

「東京日日新聞」にとってこのスクープは、「東京朝日新聞」への積年の恨みを晴らす絶好の機会だった。明治天皇が崩御した際、「東京朝日新聞」大阪通信部の緒方竹虎（後に朝日新聞社副社長）が、三浦梧楼枢密顧問官から新元号「大正」決定の特ダネを入手。「東京日日新聞」が一敗地にまみれていた。

それでは、「東京日日新聞」はこの「光文」スクープをいかに入手したか——。

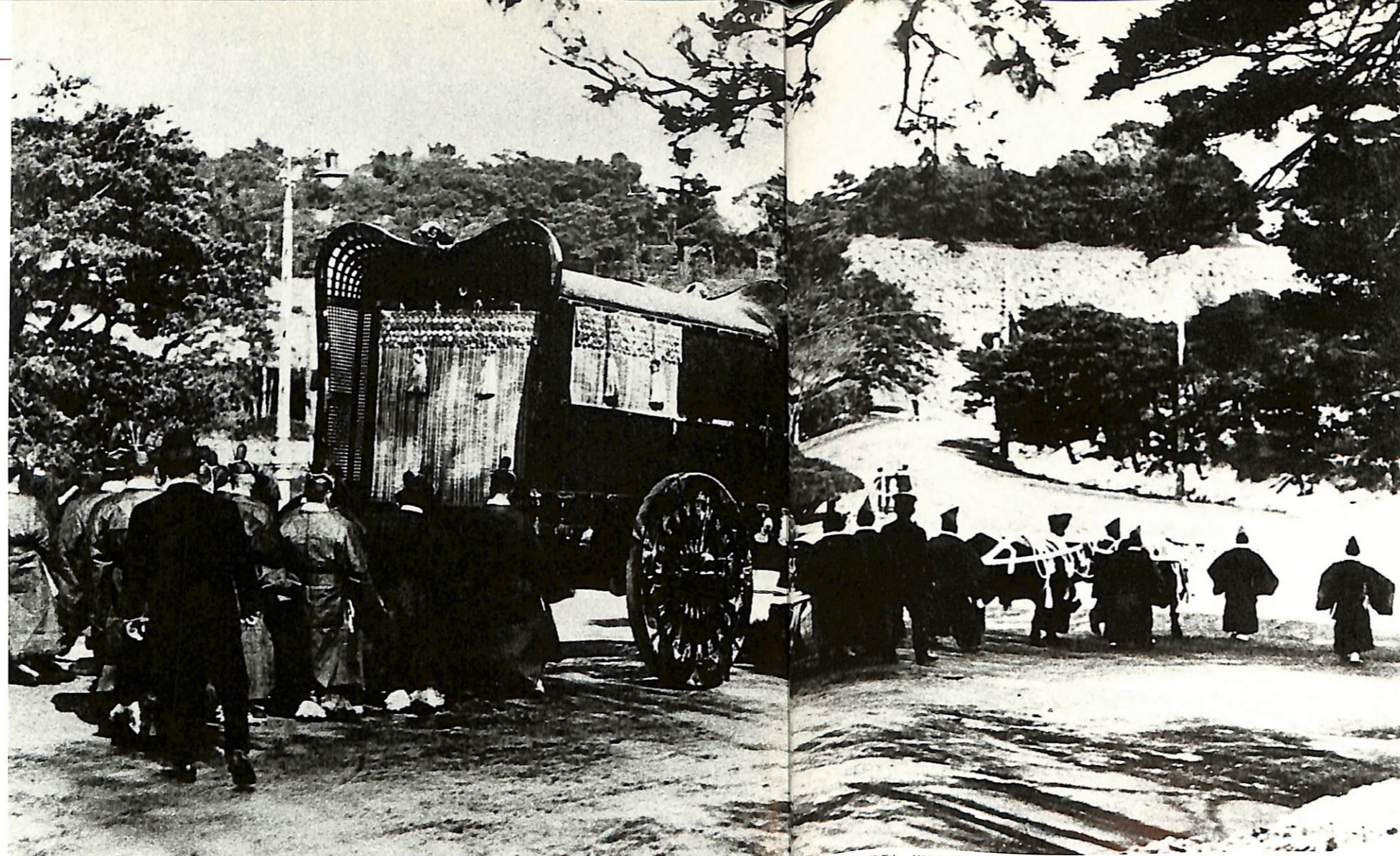
「大正が改元される場合は『光文』か『天文』の二つのうち、どちらかに決定されるという極秘情報が、かなり以前から『東京日日』に入っていた。これは、同社の政治部で辣腕をうたわれていた杉山孝二記者の働きによるもので、その後、政治部長の西村光明のもとにも『光文』に決定するという情報が入っていた」（渡辺一雄『実録号外戦線』）

「東京日日新聞」の号外に驚いたのが、水ももらさぬ厳戒体制を敷いていた「東京朝日新聞」である。そこで、同社の大塚喜平政治部記者はことの真偽を確かめようと、一二月二五日朝から葉山の御用邸で開かれていた枢密院の精査委員会を徹底マーク。意外なことに、安達謙蔵臨時代理大臣（六二）から「（新元号は光文でなく）昭和だ」との返答を得る。大塚は、「昭和」と書いたメモを握って、「元号だ！」と叫びながらデスクに駆けつけたとたん、その場に倒れこんでしまったという。

実際、翌二六日午前一一時、政府は、「大正一五年一二月二五日以降を改めて昭和元年となす」との詔書を公布。この瞬間、「東京日日新聞」の〝世紀のスクープ〟は、〝元号誤報事件〟に一転した。

「東京日日新聞」の本山彦一社長（七三）の憤りは激しく、翌二年一月一五日の重役会でみずから辞表を提出。責任問題で社内は紛糾した。

「昭和」に決まった理由については、政府と宮内省が、「東京日日新聞」のスクープの後、あわてて決定済みの「光文」を「昭和」に差しかえたと噂されたが、真相はいまだ謎である。

新聞社の混乱を尻目に、昭和二年二月七日に御大喪、翌三年一一月一〇日に裕仁新天皇の即位大礼式が行われた。元号決定の騒動が予期させるような、波乱の「昭和」が始まったのである

▲大正天皇の大喪儀の中心である「葬場殿の儀」は、昭和2年2月7日、新宿御苑で行われた。写真は皇居から御苑に向かう葬列。沿道は50万の人で埋めつくされた。 毎日新聞社

▲明治37年、沼津御用邸でのスナップ。左から侍従、淳宮(秩父宮)、裕仁親王(昭和天皇)、皇太子嘉仁(大正天皇)。

元号の歴史あれこれ

645年の「大化」から1989年の「平成」まで、日本では計247の元号が用いられている。天皇の在位期間中はひとつの元号を使用し、皇位継承まで改元しない「一世一元の制」が導入されたのは明治時代。天皇中心の近代国家をめざした、新政府のイデオロギーを体現するのが目的だった。それぞれの由来は次のとおり。

●明治

儒学者が出した案の中から岩倉具視らが23にしぼり、先代天皇の崩御から1年9ヵ月後の慶応4年（1868）9月7日、明治天皇が宮中で籤引きで決めたという。出典は『周易』の「聖人南面して天下を聴き、明に嚮いて治む」。

●大正

明治天皇が崩御した明治45年7月30日、西園寺公望首相が学者数人に提出させた「大正」「天興」「興化」から、枢密院会議が「大正」に決定。出典は『易経』にある「大いに亨りて以って正しきは、天の道なり」。

●平成

昭和54年に成立した元号法により、改元の権限が皇室から内閣に移行。閣議決定による政令で公布された、初の元号になった。有識者による「元号に関する懇談会」なども行われたが、実質は、保守派政治家の理論的支柱と言われた思想家・安岡正篤の判断が反映されたとされている。出典は『史記』の「内平かに外成る」と『書経』の「地平らかに天成る」。

◀「平成」の元号決定に関与したとされる安岡正篤。

共同通信社

広い中庭に共同浴場や社交場つき！公的資金で供給された史上初の集合住宅

「同潤会アパート」のハイカラ生活

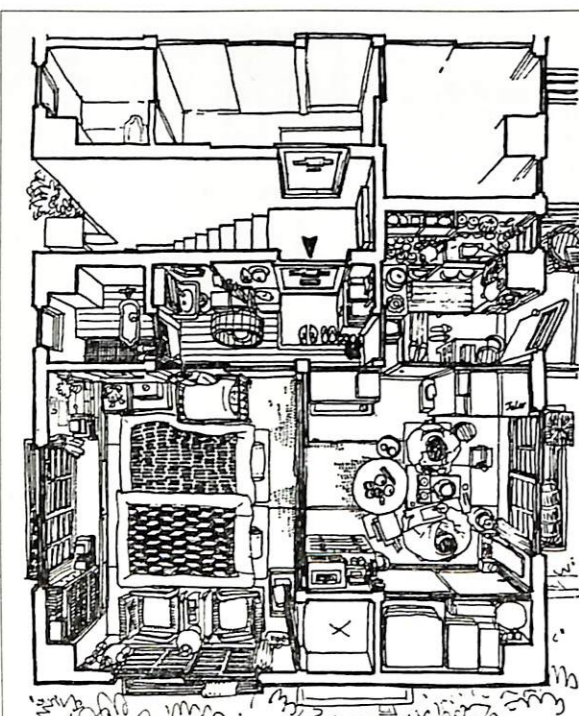
関東大震災からまもない、大正一五年以後、「同潤会アパート」が東京、横浜に次々と出現した。それは、鉄筋コンクリートの本格的集合住宅としての、日本で初の試みであった。震災の復興をめざし、政府主導のもとで推進された同潤会の活動は、今日のマンション建設に向け大きな足場を築き上げた。

▲カメラマン・影山光洋の新婚生活は、同潤会青山アパートで始まった。昭和9年当時、家賃は水道料も含めて20円だった。 影山光洋

総戸数は二四九二戸 水洗トイレまで設置

「一番印象に残っているのは、敗戦後、疎開先の新潟から飯田橋（東京）の駅に着いた時のことです。当時私は六歳。まったくの焼け野原に、私が住んでいた六階建ての江戸川アパートだけが、しっかり残っていました。今は建て替え準備のため、二六〇戸のうち約六割は空き部屋になっていますが、最近のマンションと違い、広い中庭や共同浴場や社交場などもあり、ハイカラで濃密なコミュニケーション空間が形成されていました」

同潤会江戸川アパート（現・新宿区）で生まれ育ち、今もその場所に事務所を構える建築家の橋本文隆氏（現・五七歳）は、こう語る。

◀同潤会代官山アパートの住み方の例。このアパートの入居は二年四月。児童遊園、公衆浴場、娯楽室が設けられている。 西山夘三『日本のすまい』より。

「同潤会」とは、大正一二年の関東大震災後、内外からの義捐金五九〇〇万円のうち一〇〇〇万円を基金として、罹災者の復興と不良住宅（スラム）の改良をめざして設立された財団法人。

その設立は大正一三年三月の閣議決定によるもので、初代会長に水野錬太郎内務大臣、専務理事には東京市の経理課長・宮沢小五郎が選任され、壮大な計画が実行に移された。

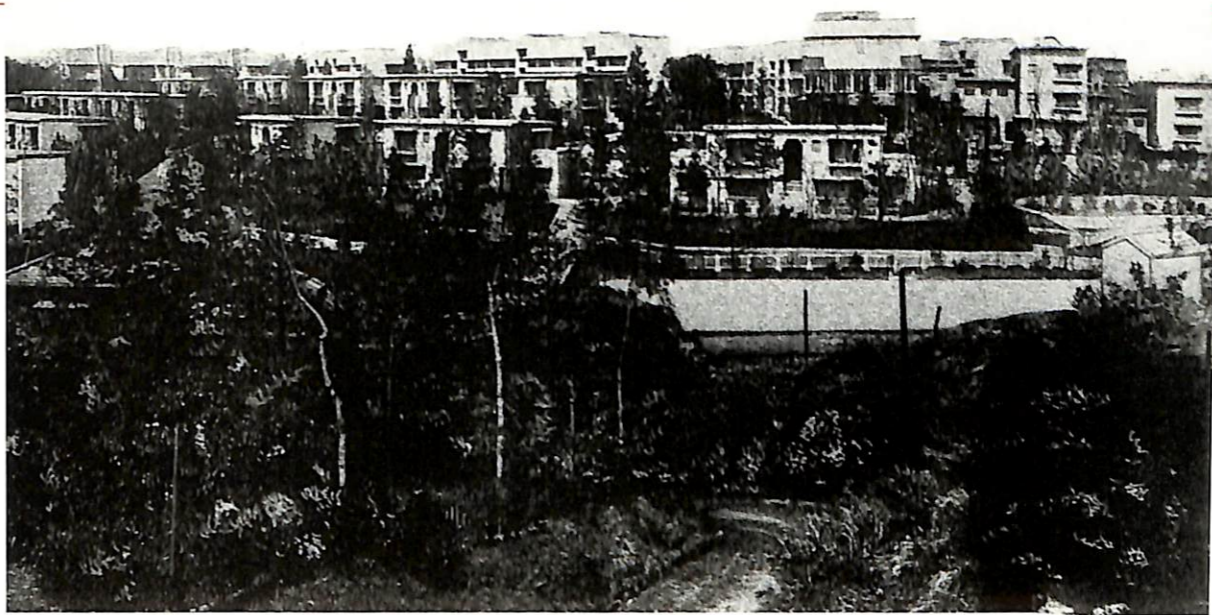
「同潤会アパート」は、大正一五年度に、中之郷（現・墨田区）、青山（現・渋谷区）、柳島（現・墨田区）、代官山（現・渋谷区）、清砂（現・江東区）の各アパートが竣工。以来建設を拡大し、昭和五年度にその計画・実施を終了した。

その間に建てられたアパートの総戸数は、東京方面が一三ヵ所二二二〇戸、横浜方面が二ヵ所二七二戸、合計で一五ヵ所、二四九二戸で、その総床面積は実に約七六〇〇坪（約二万五〇〇〇平方メートル）におよんでいた。一戸の平均床面積は約一〇坪（約三三平方メートル）、三ノ輪（現・台東区）アパートが七・九坪（約二六平方メートル）、江戸川アパートが一四・三坪（約四七平方メートル）と開きはあったものの、建物はすべてコンクリート構造で、ほぼ同じ特徴を有していた。

「同潤会アパート」は鉄筋コンクリート造りというだけでなく、出入り口には防火扉を設け、地震や火災に対する防備を強化する一方で、文化的生活をいとなむため、各戸ごとに水洗式のトイレが設けられた。また、台所には、流し台、ダストシュートが取り付けられ、そのほか、押し入れ、鏡つき洗面台、表札なども完備されていた。今のマンションと大きく異なる特徴もあった。屋上には洗濯場と干し物用ロープが取り付けられており、日光で洗濯物を乾燥させる生活習慣の維持と、入居者のコミュニケーションをはかる工夫がほどこされていたのである。

家賃は、各アパートごとに一畳当たりの標準が定められた。たとえば、中之郷は一・三五円、代官山が一・四円、坪換

▲東京の表参道にある同潤会青山アパート。同潤会アパートの中でも最も初期のもの。

◀同潤会渋谷アパートの全景。3階建てで、34棟の中に、独身向き、世帯向き、店舗の3つのタイプがあった。

算一〇坪の居住者は、二八円。公務員の初任給が七五円の時代としては割高であった。入居申し込み倍率も高かった。中之郷五・二倍、青山七・六倍、江戸川にいたっては一三倍の激戦だった。

明治・大正の小説家、坪内逍遥の甥で舞踊研究家の坪内士行は、江戸川アパート入居の頃を「……あれが合縁奇縁というものだろうか。私は、これだ、といっぺんにきめて、まだ半ばもできていないうちに申し込んだ」（「日本経済新聞」昭和四四年四月四日）と回想し、生涯をこのアパートで送ったのである。

建築技術の粋を集め設計 坪当たり建築費三〇三円

「同潤会アパート」の設計には細心の注意が払われた。初期の建物は、後に東大・安田講堂の設計にたずさわる東京帝国大学の内田祥三教授のもとで設計された。内田門下の卒業生で、大正一四年卒業の黒崎英雄や柘植芳男ら二〇～三〇人もが加わり、ダストシュートなど衛生上の問題などを次々に解決していった。

最初のアパート、中之郷の設計は大学の内田研究室で行われた。そこには、世界各国の建築雑誌が取り寄せられており、まさに、世界の建築知識の宝庫であった。細部のデザインにも格別な注意が払われた。外観はもちろん、玄関、階段室、窓やバルコニーのデザインなど、これらのひとつひとつが、当時の建築技術の粋を集めて仕上げられていったのである。

一番大きな難関は、長屋などでのこれまでの生活習慣と、どう折り合いをつけるかだった。天井が低いため、畳の代わりにコルクを張りゴザを敷くとか、廊下を広くしたり、井戸端を設けるなど、その苦心は大変なものであった。

コスト削減もはかられたが、建築費は膨大なものとなった。中之郷アパートの建築費は総額約七六二万七六〇〇円に達し、一戸当たり平均が約三〇六一円、一坪当たり平均は約三〇三円。施工業者には、戸田建設、清水建設、大林組など、現在も有力な企業が加わっていた。

「同潤会の活動は、日本の歴史上初めて政府の公的な資金で集合住宅を供給したという点で特筆されます。最初は下町の不良住宅（スラム）の解消が目的とされて、居住者も低階層の人が多かったのですが、途中からは中産の一般市民に門戸を開き、その後の高層マンションへの礎を築いたのです」

こう語るのは、東京大学生産技術研究所の藤森照信教授である。

事実、同潤会アパートでは、戦後になっても戦前のハイカラな雰囲気が強く残っていた。たとえば、江戸川アパートでは、昭和二一年四月、住民みずからの手で発行された「江戸川アパート」新聞に、毎週木曜日の混声合唱の会や土曜ダンスの会、子ども絵画展、読書会などの案内が掲載されていたのである。

▶横浜の同潤会山下町アパートの公共部分である内庭。このアパートは総戸数一五五戸。

▶清砂アパートの娯楽室。同潤会アパートは状況に応じて、児童遊園、食堂なども設置された。

▶独身女子専用の東京・大塚女子アパートの応接室。ほかに音楽室もあり、エレベーターも完備。

女たちの肖像

朴烈事件首謀者とされた無期囚・金子文子の自殺と『何が私をこうさせたか』

稲葉真弓

この年の三月二五日、大審院（現・最高裁）法廷で、「被告両名を死刑に処す」という判決が言い渡された。両名とは大逆事件の首謀者として市ケ谷刑務所に収容されていた朴烈（二四）と金子文子（二三）夫妻である。

そもそも二人が拘束されたのは、大正一二年九月の関東大震災後、朝鮮人が暴動を起こすというデマが流れたことに端を発している。「不逞鮮人」の取締り、反体制勢力の弾圧をめざす当局が、民族解放運動の闘士であり「不逞鮮人」をもじった「太い鮮人」という雑誌を出していた朴烈をターゲットにしないわけがない。二人は、保護検束の名目で世田谷刑務所に留置されるが、住所不定、生業なしという理由で勾留を延長され、さらに爆発物取締規則違反という罪名が加わり、ついに、皇族を爆弾でねらったという大逆事件の首謀者に仕立て上げられていった。

しかし、文子はこの判決にひるまなかった。「万歳」と叫んで法廷を震撼させたうえ、四月五日「恩赦」によって無期懲役の減刑となった時も、受け取った減刑状をその場でびりびりと引き裂いてしまった。

栃木の刑務所に送られた後も、彼女は、再三の「転向勧告」をかたくなに拒否。あげく七月二三日、独房で麻縄を首に巻き自殺、二三歳の短い生涯を終えた。

すさまじいまでの〝反逆精神〟である。こうした文子の生き方は、複雑な生い立ちに深くかかわっている。明治三六年一月、横浜生まれの彼女は、佐伯文一を父に、金子きくのを母に持ったが、夫婦関係のすさみと破綻から入籍されず、次々と男を替える母のもとで、籍のないまま愛も教育も与えられない子ども時代をすごした。大正元年、九歳の時、祖父の五女として入籍。この年、朝鮮にいる裕福な親族に預けられ、ようやく小学校にかよう機会を得たが、一方で女中同然の家事労働を強いられ、あまりの虐待に自殺まで考えたという。

大正八年、朝鮮を出た彼女は翌年上京。新聞売り、女中、おでん屋の店員をしつつ夜学にかよい、社会主義にめざめていった。そして朴烈との出会い……。彼女の足跡は、自伝『何が私をこうさせたか』に詳しいが、幼少時の苦い体験から、最後まで〝私は私を生きる〟という自我の思想を貫いた。

死後、彼女の遺骨は、朴烈の故郷である朝鮮・慶尚北道聞慶郡の山に埋葬された。

▲この年7月29日、東京地裁予審判事・立松懐清が撮影した、朴烈と金子文子が寄り添った「怪写真」が東京市内に出まわり、問題化。

勝者・敗者

日米対抗水上競技大会で高石勝男、獅子奮迅！強豪を相手に三種目優勝

阿部珠樹

この年の九月七日、八日の二日間、東京・玉川プールでは日米対抗水上競技大会が行われた。女子はなく、男子だけの大会だったが、二年前のパリ・オリンピックで五個の金メダルを獲得したアメリカチームは、当時文句なしの世界一のチーム。それに対して、日本勢がどれくらいの勝負ができるか、注目が集まった。

大会が始まると、目覚ましい活躍を示したのは、一九歳の早大生・高石勝男だった。

高石は初日の一〇〇㍍自由形で、アメリカ勢相手に一分ちょうどのタイムで優勝すると、同じ日の二〇〇㍍リレーにもアンカーとして出場し、アメリカチームをあと一歩のところまで追いつめる。そして二日目。二〇〇㍍自由形で、再びアメリカ勢をおさえて優勝。こうなると勢いは止まらない。

仕上げは八〇〇㍍リレーだった。すでに日本チームは、この年の六月、ハワイに遠征し、当時の世界記録となる九分四四秒の記録を作り、自信を持ってのぞんでいたが、それを裏づけるようにスタートからハイペースで飛ばす。ラップは世界新記録。アンカーの高石が飛びこんだ。二日で四レースをこなす疲労などみじんも見せず、高石はアメリカチームとの差を広げる。そして、悠々ゴール。

タイムは九分三八秒二の世界新記録。高石はほかの日本選手がすべて二分二〇秒台のところを、一人、二分一七秒二で泳ぎ、第一人者の貫禄を示した。

高石は大阪・茨木中学の出身。日本でクロールを最初に身につけた選手として頭角を現し、二年前のパリ・オリンピックではリレーも含め三種目に入賞をはたすなど伸び盛りだった。

そしてこの日米対抗でつかんだ自信を、二年後、一九二八年のアムステルダム・オリンピックにぶつける。一〇〇㍍で後にターザン映画の主役となったジョニー・ワイズミューラーにこそおよばなかったものの、銅メダルを獲得。これは、二〇〇㍍平泳ぎ優勝の鶴田義行に続く快挙だった。

「国際画報」

▶八〇〇メートルリレーで世界新記録の日本チーム。左から佐田、野田、新井、高石の各選手。

1926

フォト＋日録で再現する365日

松島遊廓疑獄事件、陸軍機密費横領事件、朴烈怪写真事件など政治スキャンダルが目立ち、労働争議、小作争議も頻発した。しかし、モダンな同潤会アパートや文化住宅の登場、ドレミ開校など、復興する帝都・東京の息吹が新時代・昭和の幕開けを告げていた。

◀水谷八重子、ハリウッドから帰る(7月22日)約3ヵ月の「映画聖地」視察の旅を終え、松竹キネマ監督・牛原虚彦らと横浜港に。「使った英語はグッドバイなど三つだけ」と、あいかわらずのお茶目ぶりだった。

朝日新聞社

1月

朝日新聞社

▲武者小路実篤(40)「新しき村」を出る(1月) 友人の志賀直哉らの勧めで奈良に転居。大正7年来、宮崎県で理想社会実現につとめてきたが、「一身上の都合」で村外会員となった。写真は春日神社で。

尾形光彦提供

▲東京・新宿に百貨店登場(1月) 老舗「ほてい屋」が3丁目交差点に進出。地下1階、地上7階の威容を誇った。新宿は震災以後、急速に発展、ほてい屋も昭和4年大増築するが、後に伊勢丹に買収された。

▼日本初の「病院機」テスト飛行(1月19日) 陸軍がドイツから輸入した乗員二人・乗客4人乗り全金属製輸送機「ユンカースF-13」を、患者輸送用に改造、この日、埼玉県所沢飛行場で試験飛行を行った。

▶共同印刷争議始まる(1月19日) 会社側の操業短縮強行に対し、評議会指導でスト突入、延々3月まで続いた。争議団全員解雇、事業半減など被害は甚大だった。写真は街頭でカンパを求める組合員。

「無産者新聞」／法政大学大原社会問題研究所

「写真通信」

毎日新聞社

▶日本初の自動交換電話誕生(1月20日) 東京・京橋電話局が1200台の取り付けを終了、開通した。ダイヤルをまわせば、交換嬢を通さずに通話ができ、画期的な進歩を印象づけた。写真は、京橋局内の自動交換機。

◀栃木山、引退相撲(1月) 優勝候補だった前年5月場所前に「今が花だから」と。33歳。169センチの小兵ながら横綱昇進後は、115勝8敗の驚異の星。写真は最後の土俵入りで、左・西ノ海、右・常ノ花の両横綱。

「写真通信」

大正15年1月

1(金) ●世界一周観光団の四二三人が英船で横浜着。一五万円以上を日本に落とす、と新聞に。

2(土) ●新潟県新発田に農民青年学校が開校。

3(日) ●ギリシャで政変、共和制は二年で崩壊。

4(月) ●英国で「寡婦・老齢年金法」が発効。

5(火) ●ドイツで、列車との無線電話サービス開始。

6(水) ●ドイツでルフトハンザ航空会社設立。

7(木) ●菊池寛の提唱で小説家協会と劇作家協会が合同し、「文芸家協会」設立。

8(金) ●イブン・サウド、ヘジャズ王などを自称。

9(土) ●日本農民組合岡山県連、産児制限などを協議。

10(日) ●前年引退した元横綱栃木山が断髪式。

11(月) ●張作霖、東三省は北京政府から独立と宣言。

12(火) ●東洋レーヨン、設立。

13(水) ●「こども博覧会」開催(7月1日、京都でも)。

14(木) ●朝日新聞社募集のラジオ用新作落語、一等に「空気」が当選(2月、春風亭柳枝で放送)。

15(金) ●京大などで、社会科学研究会の学生を一斉検挙(京都学連事件。治安維持法の初適用)。

16(土) ●奥むめお主宰の職業婦人社、東京職業婦人懇談会を開催。

17(日) ●伊豆大島で結核が蔓延し、死因の二割に達する、と新聞に。

18(月) ●東京市が失業者救済を開始、三五〇〇人雇用。

19(火) ●共同印刷争議。会社側は全員解雇で対抗。

20(水) ●東京・京橋電話局、ダイヤル式自動通話実施。

21(木) ●幣原喜重郎外相、中国への内政不干渉と日本の権益擁護を声明。

22(金) ●「産児制限」に関する書籍三〇〇〇冊が出版法違反で東京・淀橋で押収される。

23(土) ●東京市主催の第一回珠算競技大会開催。

24(日) ●岩手県久慈町で大火、町部の三分の二、四〇〇戸を焼失して二〇〇〇人が罹災。

25(月) ●東京は四〇年来の干天続き、北陸は豪雪で四日間埋没したままの列車も、と新聞に。

26(火) ●伊共産党、仏のリヨンでリヨン・テーゼ採択。

27(水) ●英国の電気技師・ベアードが世界初のテレビ放送公開実験に成功。

28(木) ●加藤高明首相没。六六歳。

29(金) ●東京で、書籍を万引きして図書館に寄贈、信用させて本を借り逃げした男が捕まる。

30(土) ●桐生市で大火、駅前の六〇戸を焼失。

31(日) ●黒色青年連盟のアナーキスト四〇人、警察の講演会解散命令に怒り、東京・銀座で暴行。

▶**エッフェル塔くぐり抜け直後、墜落(2月24日)** 仏陸軍航空隊練習生が冒険飛行。みごとに成功したが、その直後に無線電信の空中線に引っかかった。機はばらばらに砕け炎上、練習生は焼死。写真は通過直前。

「国際画報」

▲**進む東京の地下鉄工事(2月)** 大正6年に早川徳次らによって企画されながら、関東大震災のため遅延。やっと前年末、上野―浅草間が着工、昭和2年12月30日に開業した。

◀**チャールストン耐久競技大会(2月3日)** ニューヨークで、深夜零時から開始。「人道上の理由」で中止になった22時間30分後、残ったのは16人中3人だった。写真は優勝者。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▼**東京の消防に防煙マスク登場(3月)** 大火の際、消防隊員がしばしば煙の犠牲になるため、警視庁消防部が100個発注。写真は、人命救助訓練に励む隊員。第1次大戦で独軍の毒ガス攻撃に耐えた英軍の防毒マスク姿を、彷彿させた。

「写真通信」

▼**海賊に襲われた貨物船「玄武丸」帰還(2月21日)** 命からがら大阪港へ。1月、中国南東部・黄浦江沖にジャンク2隻が出現、銃を持った中国人に乗員が身ぐるみはがれた。

朝日新聞社

▶**労組法反対!(2月7日)** 取締り的色彩が強く、国会上程後、激しい反対運動が起きた。この日、評議会系の労働者ら5000人が芝公園で気勢。結局、審議未了となった。

「写真通信」

大正15年2月

1(月)●英国で失業者登録が一一七万人を越える。
2(火)●東邦電力が二二万ボルト送電の研究開始と新聞に。
3(水)●ニューヨークでチャールストン・マラソン・ダンス大会。優勝者は二二時間半踊り抜く。
4(木)●訓練で民家に分宿中の甲府第四九連隊の兵が誤って機関銃を発砲、主婦一人が重態。
5(金)●東京市内の自動車は約四〇〇〇台、前年に起きた事故は約六〇〇〇件、と新聞に。
6(土)●ムッソリーニ、南チロル統治問題などでドイツを非難、以後非難の応酬続き伊独関係悪化。
7(日)●資本家側の要求容れた労働組合法政府案に対し、大都市各地で大規模な反対デモ。
8(月)●ドイツ、国際連盟加盟を申請。
9(火)●警視庁、飛行機からのビラまき制限規則新設。
10(水)●全国農民大会、農村振興に関税引き上げ要望。
11(木)●在郷軍人会、赤尾敏らが第一回建国祭。東京では三万人がデモ行進、紀元節をより国粋化。
12(金)●福本和夫、『社会の構成並に変革の過程』を発表。この頃「福本イズム」隆盛。
13(土)●無産政党組織化の第二回協議会。評議会など共産主義的な左派勢力の排除を決める。
14(日)●労働婦人協会、設立。労働法制の研究・婦人労働に関する世論喚起など申し合わせ。
15(月)●東京シネマ、日本全国を空撮する企画の第一弾として、東海道五十三次を撮影。
16(火)●セメント業界、設備過剰で三三%の減産協定。
17(水)●東北帝大で三月に初の女性文学士、と新聞に。
18(木)●不景気下、東京の新春一〇日間の遊興費売り上げは前年比六割増の八五六万円、と警視庁。
19(金)●全国連合女子教育大会、開催。女子高等教育促進・機会均等などを要求(~20日)。
20(土)●日清製粉、日産二〇〇〇バレルの鶴見工場を完成。
21(日)●大阪・天神橋の天満青物市場が全焼。
22(月)●東京・三河島の火葬場倉庫で、大正六年以来の身元不明遺骨一四〇〇人分を発見。
23(火)●浜口蔵相、金解禁は時期尚早と議会で言明。
24(水)●政府、大正一三年度決算を衆院に提出。歳入約二二億円、歳出約一六億円。
25(木)●東京に市価の半値・一丁三銭の豆腐行商が登場、業者は「安売り防止隊」で対抗、と新聞に。
26(金)●地銀・証券会社の免許取り消し相次ぐ。
27(土)●ニューヨーク市は、自動車交通のさまたげになるとして市電廃止を決定した、と新聞に。
28(日)●大阪・松島遊廓移転をめぐり疑獄事件発覚。

「写真通信」

▲**新橋駅新装(3月9日)** 関東大震災で焼失した駅舎が復興。芸者衆が東踊りを演じるなど、華やかに落成式を行った。東海道線の普通列車停車駅として復活した。

朝日新聞社

▼**樹木伐採に戦車登場(3月17日)** 敷地拡張中の千葉県松戸の工兵学校が、輸入された英国製中型戦車の威力実験を兼ねて実施。参謀本部からの見学者も見守る中、大木を次々となぎ倒した。

▲**万国博出品の真珠塔(3月24日)** 御木本真珠店が製作。6月に開かれる米・フィラデルフィア博に運ばれる前に披露された。21万個の真珠とプラチナで作った五重塔で、高さ約1メートル。

「写真通信」

▼**「伊号第1」潜水艦、完成(3月10日)** 大型で長大な航続力を特徴とする、日本の潜水艦の先駆け的存在。目標は、太平洋を越えて来襲する米主力艦の捕捉・攻撃におかれた。

呉市企画部海事博物館推進室提供

「国際写真情報」/国際フォト

◀**シェークスピア記念劇場、焼失(3月6日)** 偉業を記念してロンドンの北西、エーボン河畔に1879年に建てられた建物が、灰燼に帰した。現在の劇場は1932年の再建。

▼**北京で「3・18事件」勃発(3月18日)** 抗日・反帝国主義運動を弾圧する段祺瑞政府に、学生と民衆が天安門広場で抗議集会。軍や警察が発砲し、50人余が死亡した。

大正15年3月

1(月)●東京電気(現・東芝)、内面つや消し電球「新マツダランプ」を世界に先駆けて発売。
2(火)●日仏シトロエン自動車が、一五〇~四五〇円値下げ。六人乗りリムジンで四六五〇円。
3(水)●水兵志願者が前年の五倍半、と新聞に。
4(木)●中野正剛、衆院で、政友会総裁・田中義一が陸相時代に機密費四〇〇万円を受領と追及。
5(金)●左翼を排除して、労働農民党結成。
6(土)●イギリスのシェークスピア記念劇場が焼失。
7(日)●ニューヨーク―ロンドン間で無線電話が成功。
8(月)●国際連盟総会、開催。議長に石井菊次郎。
9(火)●美術モデルは東京に一〇〇人、大阪に一五人、収入はチップ別で月五〇~一〇〇円と新聞に。
10(水)●川崎造船所で、「伊号第一」潜水艦竣工。
11(木)●衆院、四日の中野正剛発言に対し反省を求める決議案上程。議場、流血の大混乱。
12(金)●中国の大沽砲台が、日本駆逐艦二隻を砲撃。
13(土)●池貝鉄工所、新型工作機械「縮写削成機」の特許を取得。
14(日)●全関西写真連盟、第一回撮影競技大会を開催。
15(月)●東海道線と山陽線で、D50形機関車による九〇〇トン牽引を開始、従来より二五〇トン増加。
16(火)●米のゴダード、液体燃料ロケット実験に成功。
17(水)●日本レイヨン設立。
18(木)●北京で反軍閥大会。軍警が発砲し、死者多数。
19(金)●東京・巣鴨で大火、五九〇戸焼失。
20(土)●蔣介石、軍の共産党員を逮捕(「中山艦」事件)。
●大阪で「電気博」開催、訪欧機展示が人気。
21(日)●築地小劇場、最初の創作劇として、坪内逍遥作「役の行者」を上演。
22(月)●文部省、大阪・浪速高等学校の設立認可告示。
23(火)●東京地区のラジオ受信者は約一万七五〇〇人、「月給取り」と「商人」が多い、と新聞に。
24(水)●警視庁、東京府内での女相撲興行を禁止。
25(木)●大審院、朴烈事件で、朴烈・金子文子に大逆罪認め死刑宣告(4月5日、無期懲役に減刑)。
26(金)●二階堂トクヨの体操塾、日本女子体育専門学校(現・日本女子体育大学)として認可。
27(土)●税制整理諸法、公布。営業税など廃止。
28(日)●日本農民組合、分裂。左傾化に反対する平野力三らが脱退。
29(月)●震災手形割引期間をさらに一年間延長と決定。
30(火)●郵便年金法公布。
31(水)●三菱長崎造船所で、巡洋艦「古鷹」竣工。

「国際画報」

◀**入場券の自動販売機お目見え（4月25日）**東京鉄道局が東京駅に4台、上野駅に2台設置。ドイツから輸入した機械で、上の方の口に10銭銅貨を入れてハンドルをまわすと、下の穴から入場券が出てくる仕組み。

▶**代々木練兵場で航空ページェント（4月11日）**国民新聞社と帝国飛行協会が主催。集まった陸・海軍機、民間機合わせて100機が、息をひそめた群衆の頭上で壮烈な模擬戦を演じた。写真は、煙幕展張を実演する2機。

「国際写真情報」/国際フォト

▶**東京の芝浦桟橋が竣工（4月1日）**築港計画中の東京港の先駆けとして誕生。若槻首相、片岡商相らを招き、盛大に落成記念祝賀会が行われた。全長約920メートル、3000トン級の汽船6隻が横づけできる規模となった。

朝日新聞社

▼**洋裁の「ドレメ」開校（4月10日）**米国帰りの杉野芳子（34）が創立。生徒が3人しか集まらず、東京・芝白金の自宅（写真）に撤退、11月に品川に移転、ドレスメーカー女学院を名乗った。

杉野学園提供

▼**十勝岳大爆発（5月24日）**北海道中央部の火山（標高2077メートル）の噴火口壁が崩壊、積雪が泥流となって、一気に富良野の開拓村などを呑みこんだ。死者・行方不明者144人におよんだ。

朝日新聞社

▼**伊勢神宮、棟持柱奉曳（5月8日）**7世紀後半から21年目ごとに行われてきた式年遷宮が昭和4年にあたるため、造営工事の祭りを実施。五十鈴川から外宮へ、巨大な棟木を曳く儀式が行われた。

朝日新聞社

大正15年4月

1（木）●日本女子スポーツ連盟創立。
2（金）●カルカッタでヒンズー教徒とイスラム教徒が衝突。インドの独立運動にブレーキ。
3（土）●イタリア、ファシスト系以外の労組活動禁止。
4（日）●第一回全国民間飛行機操縦士競技大会開催。
5（月）●モスクワで日本文芸研究会が開催され盛況。ソ連俳優による戯曲「景清」上演など。
6（火）●大阪商船、逓信省命令で、大阪—那覇航路開設。
7（水）●ローマで、ムッソリーニ暗殺未遂事件。
8（木）●交通信号の試作を進めている警視庁が、ベルつきの新型を浅草橋で試用。
9（金）●労働争議調停法公布。労・使・公益の三者による調停委員会設置、強制調停の定めなど。
●治安警察法改正。ストライキの誘惑・扇動を禁止する条項を削除。
10（土）●第一・四半期の入超は二億二〇〇〇万円、それでも前年より一億四〇〇〇万円減少と判明。
11（日）●東京・代々木で「航空ページェント」開催。一〇〇機が参加し、曲技飛行などを公開。
12（月）●満鉄、事務の能率化を目的に、四〇〇〇人解雇。
13（火）●東宮御所の白鳥が逃げ、警官三〇人が出動。
14（水）●新潟で降雪、四月としては明治三一年以来。
15（木）●六甲山で山火事、消防士二〇〇〇人以上重軽傷。
16（金）●アメリカで、「ブック・オブ・ザ・マンス・クラブ」結成。権威が選定した良書を会員に配布。
17（土）●東京でアイヌ講演会。金田一京助がアイヌ語について講演。
18（日）●奈良県王子町で、町制記念祝賀会場に飛行機墜落。小学生など二人死亡、十数人負傷。
19（月）●農林省、新潟と酒田に米穀倉庫新設と発表。
20（火）●北京で張作霖・呉佩孚合作政権が成立。
21（水）●内務省、全国五〇ヵ所に健康保険署を設置。
22（木）●小学校令改正で、日本歴史を「国史」と改称。
23（金）●熊本県水俣町沖で、難破船救助に向かった青年団などの船が波浪で沈没、十数人死亡。
24（土）●青森—函館間に電話開通。本州と北海道が電話で結ばれる。
25（日）●東京・上野両駅で入場券自動販売機使用開始。
26（月）●浜松の日本楽器製造で、待遇改善要求し一三〇〇人がストライキ（日本楽器争議）。
27（火）●東京市、市電の急行を廃止と決定。
28（水）●児童の希望は男女とも「金持ち」、と新聞に。
29（木）●キューバ議会、砂糖の生産制限を可決。
30（金）●ロンドン発の電送写真が米の新聞に初掲載。

朝日新聞社

▲**「行幸通り」完成（5月）**「帝都復興計画」に基づき、東京駅丸の内口から宮城へ向かって、幅60メートルもある道路が登場。写真奥が東京駅、右は震災を生き抜いた丸ビル。

証言・あの日この日
若槻礼次郎（59）

1月30日（土）　〈大正十五年一月、私は内閣組織の大命を拝したが、閣員の顔触れは、加藤内閣そのままとし、一名の変更をも加えなかった。そして私の内閣の第一の任務は、加藤内閣の政策を成立せしめ、死せる加藤の志を遂げしめることであった。その主なるものは税制整理案で、これはすでに議会に提出されている。／しかるに憲政会の勢力は、半数に満たないので、いずれかの政党と接近して、その援助を得る必要があった〉（若槻礼次郎『明治・大正・昭和政界秘史』）

加藤高明首相の病死後、内務大臣の若槻は憲政会単独内閣を組織するが、松島遊廓事件や朴烈怪写真事件などのスキャンダルで孤立。そこで政友会、政友本党と妥協し、危機を乗り切ろうとする。しかし場あたり的な政局運営に、政党内閣への不信が高まる。（山崎行太郎）

「国際画報」

◀**「危険思想」取締りに躍起（5月8日）**全国高等学校長会議で、岡田文相は取締り案を各校長に要求した。後に、高校生などの社会科学研究禁止が通達された。

「イリュストラシオン」

◀**アムンゼン、北極点上空を飛ぶ（5月12日）**イタリアのノビレ大佐が操縦する飛行船に乗り、ノルウェー領スピッツベルゲンを出発、太陽観測で極点を確認、46時間後、アラスカ北岸のロア湾に到着した（写真）。

▶**新潟「木崎村小作争議」激化（5月5日）**地主側が土地所有権を主張、警官隊に守られながら立ち入り禁止仮処分を強行。抵抗する集落・鳥屋浦の日農傘下組合員29人が、騒擾罪などで逮捕された。写真は出獄記念。

豊栄市博物館提供

▶**バード、北極点無着陸往復飛行に成功（5月9日）**米探検家と操縦士を乗せたフォッカー3発機が、ノルウェー領スピッツベルゲンを離陸、極点上空を旋回し、15時間30分後に帰還した。出迎えの中には、3日後に飛行船で極点へ向かう予定のアムンゼンもいた。

「イリュストラシオン」

大正15年5月

1（土）●英国で炭鉱スト（3日、全英二五〇万人参加のゼネストに発展）。
2（日）●ニカラグアで自由派が反乱、米国が軍隊派遣。
3（月）●金やプラチナに代わり、安価なホワイトゴールドの指輪が流行、と新聞に。
4（火）●ドイツ、外国為替の取引を自由化。
5（水）●新潟県木崎村小作争議で農民と警官が衝突。
6（木）●三〇年後には米が一〇〇〇万石（約一八〇万トン）不足と農林省推計、と新聞に。
7（金）●帝国競馬協会、駅の荷馬車を従来の「口取り式」から「乗馬式」に改良、と新聞に。
8（土）●群馬県赤城山中、国定忠治が賭博を開帳したとされる岩窟で記念賭博を開いた十数人逮捕。
9（日）●バード少佐ら、飛行機で北極点上空を飛行。
10（月）●パリで、国際婦人参政権同盟第一〇回大会、日本から宮川静枝が出席。
11（火）●東京の小学校で、村民六〇〇人集めての映画会開催中に講堂の床が落下、三十数人重軽傷。
12（水）●アムンゼンら、飛行船で北極点上空を飛行。
13（木）●文部省、宗教制度調査会を設置（6月、教派神道・仏教界各派が宗教法案反対運動に入る）。
14（金）●三重県警、娼妓が逃げ楼主から願い出があっても警察は捜査しないと決定。
15（土）●蔣介石、共産党員の活動制限に踏み切る。
16（日）●神奈川県三崎町で大火、二〇〇戸が焼失。
17（月）●日本楽器争議で、抜剣警官が争議団と衝突。
18（火）●ジュネーブで、第一回軍縮準備委員会開催。
19（水）●東京・本所の食堂店主が私設職業紹介所を設置、失業者救済に尽力、と新聞に。
20（木）●南満州電気の、満鉄からの分離・設立認可。
21（金）●農林省、自作農創設・維持政策を開始。
22（土）●満鉄の鞍山製鉄所、貧鉱処理の新方式に成功。
23（日）●埼玉県幸手町で、露店のアイスクリームを食べた子どもに中毒続発、翌日までに五人死亡。
24（月）●メキシコが鉱山・油田を国有化。
●北海道・十勝岳が大噴火、一四四人死亡。
25（火）●内務省社会局、救貧法案を発表。
26（水）●秋田県北浦で貯水池決壊、六〇戸が水没。
27（木）●東京・江東の低地一五〇万坪を八尺（約二・四メートル）かさ上げする計画がスタートと新聞に。
28（金）●ポルトガルでクーデター。第一共和政崩壊。
29（土）●文相、学生・生徒の社会科学研究を禁止。
30（日）●ビルマで大洪水、一二〇〇人以上死亡。
31（月）●千葉県の北総鉄道に敷設免許。

▶インターゾーン進出（6月）米遠征中の清水・原田・鳥羽・俵が、テニスのデビス・カップ米州ゾーンで優勝。決勝戦ではフランスに惜敗したが、宿願を達成した。写真は俵。

◀李王国葬に反日・独立の叫び（6月10日）4月に死去した朝鮮王朝最後の皇帝の葬儀が行われたソウルで、学生らが警官隊と衝突し、260人が検挙された。写真は、呂徳宮から訓練院に向かう葬列。

「国際写真情報」／国際フォト

▶「交通灯台」登場（6月11日）警視庁は、起き上がりこぼし式交通標示機が不評のため、上部の赤灯が点滅する灯台式標示機をスウェーデンから取り寄せ、馬場先門でテストした。

◀戦艦「長門」の砲塔にカタパルト（6月1日）ドイツから輸入した、圧搾空気式の飛行機射出機を装備。条約と軍縮ムードで新艦を作れない海軍は、この頃さかんに、軍艦の近代化を進めた。

▼澄宮殿下、弓の稽古（6月28日）初等科5年になった大正天皇の第4皇子、摂政宮の3番目の弟が運動場で見せた雄姿（右から4番目）。昭和10年に宮家を創設、三笠宮崇仁と名乗った。

▼フィラデルフィア博の日本館開館（6月25日）米独立150年を記念して開かれた会場の一画に、いよいよ日章旗がひるがえり、ホテルで盛大な祝宴が催された。

大正15年6月

1（火）●米国・フィラデルフィアで万国博開催。
2（水）●国際労働会議で英国代表が日本の紡績女工の夜業を非難、日本代表との間で激論に。
3（木）●大阪営林署が、立山から乗鞍岳まで、北アルプスを縦断する大縦走路を整備中、と新聞に。
4（金）●中国国民党、北伐を決定、蒋介石を国民革命軍総司令に（7月9日、北伐開始）。
5（土）●トルコ・英国など、モスル協定に調印。トルコがクルド人居住の油田地帯をイラクに割譲。
6（日）●警視庁、鋳掛け、メッキなどで鉛を使った銅鍋は中毒の危険ありとし、使用を禁止。
7（月）●北樺太石油会社、設立。オハ油田本格開発へ。
8（火）●湧水で工事中断に追いこまれていた丹那トンネルで大空洞を発見、問題が一気に解決する。
9（水）●上海の日系紡績会社で、ストライキ険悪化。
10（木）●ソウルで共産党指導下に独立要求の「万歳デモ」。数十万人が参加し、二六〇人逮捕。
11（金）●前年実施の国勢調査の詳細を公表。人口一〇万人以上の都市は全国に二一。
12（土）●日本母性保護協会、講演会を開催。
13（日）●設備日本一誇る東京市立肺結核療養所が完成。
14（月）●ブラジル、常任理事国となれず、国際連盟を脱退（9月11日、スペインも）。
15（火）●新潟県木崎村で「無産農民学校協会」発会式。
16（水）●二米人が世界一周早まわりに挑戦（二八日一四時間余りを記録）。
17（木）●大阪・松島遊廓の金成楼の娼妓が、待遇改善を要求してストライキ。
18（金）●鉄道省、東海道線複々線化を検討、と新聞に。
19（土）●飛行機のエンジン音まで使った前衛音楽「バレエ・メカニック」、パリで初演。
20（日）●古畑種基ら、血液型遺伝の三型説を発表。
21（月）●国立横浜生糸検査所、完成式。
22（火）●内務省、諮問機関・社会事業調査会設置を決定。
23（水）●東京音楽学院、設立認可（国立音大の前身）。
24（木）●府県制など改正。選挙権・自治権を拡張。
25（金）●東京市は低費用の幼稚園新設を計画と新聞に。
26（土）●カラ梅雨で六月の雨量は平年の半分と新聞に。
27（日）●ビタミンAの抽出法めぐる英国との特許争いで、日本の理研が勝つ。
28（月）●台湾農民組合、各地の組合を合同して創立。
29（火）●イタリア、労働時間を法律で九時間に延長。
30（水）●健康保険施行令公布。健康保険法公布以来五年、初の社会保険制度がスタート。

「現場」を歩く 多古町

愛人や警官を殺害、自殺した「鬼熊事件」と地元での〝実像〟

山本徹美

▲殺人を犯した岩淵熊治郎は、山林に43日間潜伏したあげく、この年9月30日、岩淵家の墓前で自殺した。熊治郎のお骨はここにはなく、ほかの共同墓地に葬られている。 但馬一憲

大正一五年八月一九日深夜、千葉県香取郡久賀村（現・多古町）で殺人事件が発生。犯人は岩淵熊治郎（三五）と言い、新聞は「鬼熊事件」と名づけた。

事件の発端は三ヵ月前にさかのぼる。荷馬車による運送業をいとなんでいた熊治郎は、愛人の吉沢けい（二七）がほかの男性と交際していると知って同女に暴行を加え、「殺す」と脅迫を繰り返していた。その一方で熊治郎は、土屋はな（三六）という女性を身請けしたが、はなを預かっていた岩井長松（四九）は彼女を逐電させてしまう。はなをさがすため熊治郎は詐欺をはたらき、その罪と、けいへの脅迫傷害の容疑で逮捕、勾留されていた。が、刑は執行猶予となり、事件前夜、出所したばかりだった。

勾留中に反省した熊治郎は謝罪のつもりで愛人・けい宅を訪問、酒を飲んで雑談を交わすうち、気を許したけいが、仲裁に入った人物が警察に訴えたことをもらす。熊治郎は逆上、けいを庭に引きずり出し、薪で頭をめった打ちにして撲殺。その足で自分を告発した人物の家へ走り、石油をかけて放火。さらに駐在所を襲撃してサーベルを奪い、それで岩井長松を刺殺。その後山林に潜伏した熊治郎だが、九月一一日、捜査中の河野光太郎巡査（二六）に発見され、同巡査を殺害。

警官隊と在郷軍人など総勢三〇〇〇人の山狩りをかわし、潜行すること四三日間。同月三〇日、ついに意趣返しをあきらめ、先祖の墓前で自殺した。

潜伏を支えた村人の温情

熊治郎終焉の地を訪ねてみた。先祖の墓はそのまま残っていたが、墓碑銘に熊治郎の名はない。近在の古老に当時の村での反応を訊く。

「熊さんは侠気にあふれ、義理堅く、人情に厚かったと聞いています。そうでなくちゃ、四〇日間以上も逃げられない。村のものがかくまったりしていたんだよ」

自殺直前の熊治郎を取材した「毎日新聞」の坂本斉一記者（後に佐原市長）が、熊治郎の言葉を紹介している。

「おらが戸を叩くと大抵のうちでは内密で泊めてくれたり、飯を食わせてくれたよ」（「文藝春秋」昭和三〇年八月臨時増刊号）

大罪は犯したものの、彼の人柄に好感を抱き同情を寄せる村人が大半で、いまだにここの住人は「熊さん」と呼び、「鬼熊」とは言わない。してみると「鬼熊」とはマスコミの創り出した虚像のような気がしてくる。連日の過熱した報道合戦に「もうかったのは多古町の宿屋と電話」（「報知新聞」大正一五年一〇月一日）という状況だったようだ。

熊治郎が本妻との間にもうけた長男は今も健在、孫もここで暮らしている。

「熊さんの息子や孫はみんな真面目で、酒は一滴も口にしないね」（前出・古老）

案内されて共同墓地へ。黒御影石の立派な墓には「熊治郎」の碑名があった。

▶警官隊や在郷軍人、青年団など約三〇〇〇人に追いつめられ自殺した、岩淵熊治郎の遺体を運ぶ。

「国際写真情報」／国際フォト

ベストセラー
「少年の日」や「秋刀魚の歌」『佐藤春夫詩集』の〝贅沢感〟

時代の雰囲気に呼応するかのように、プロレタリア文学がさかんになってきたが、この年一〇月、葉山嘉樹の『海に生くる人々』が改造社から刊行され、評判を呼んだ。室蘭で石炭を積みこみ横浜へと運ぶ汽船「万寿丸」の、船長に代表される資本家と、船員たちとの間の争いを、船員の側から描いたもの。突きつけられた過酷な現実の中で、次第に自分たちの立場を自覚していくプロセスが、この作品のポイントになった。後に刊行された小林多喜二の『蟹工船』（昭和四年）と並ぶ、プロレタリア文学の代表作と目されている。

また、社会的な問題でなくむしろ極端に個人的な問題を掘り下げた、武者小路実篤の戯曲集『愛慾』も三月に改造社から刊行され、評判となった。天才的な画家だが身体にコンプレックスを持っている男が、その兄で俳優の男と自分の妻との関係を疑い、強い嫉妬を抱くというストーリーで、同じ年の七月には築地小劇場で上演され、こちらも好評だった。

▶『海に生くる人々』の本文カット。プロレタリア文学とはいえ、洒落た雰囲気だった。

▶『海に生くる人々』（一円五〇銭）。

日本近代文学館提供（4点とも）

▶『佐藤春夫詩集』（二円五〇銭）。

▲『愛慾』（1円60銭）。

詩歌の方ではこの年三月、『佐藤春夫詩集』が第一書房から刊行されている。B5変型判とやや大型で、本文は各ページに縦罫と周囲に飾り罫が、それぞれグリーンで刷ってあり贅沢感のある造りになっている。和紙に刷った特装本も別エディションとして出版されている。内容は〝野ゆき山ゆき海辺ゆき〟で始まる「少年の日」や〝あはれ／今年の秋かぜよ／情あらば伝へてよ〟で始まる「秋刀魚の歌」などがおさめられているが、序文に著者自身次のように記している。「かくてわが青春のかたみにと一巻の歌ぐさぞ僅にわれにのこりたる。

……いのち短きものいかでかひとり麗人のみならむや。もみぢの下葉なす今日のものをさへ加へて、数ふればわがうたの百にも足らはぬことといと口惜し」と。

スターと名場面
阪妻とチャップリンの名作「乱闘の巷」「黄金狂時代」

この頃人気絶頂をきわめていた〝阪妻〟こと阪東妻三郎が、相討つ敵同士の二役を演じた「乱闘の巷」（安田憲邦監督）が、この年公開されている。一人は新撰組の近藤勇であり、もう一人は、坂本龍馬を慕い、勤皇の熱情に燃える任侠の火消し・寅松である。最後の乱闘場面を経て、結局、寅松は近藤勇に倒されてしまうのだが、死の間際に、自分の体を御所の方に向けてくれと仲間に頼み、その方向に向かって手を合わせるところなどは、不安な時代を象徴しているシーンでもあった。

洋画ではチャップリンの「黄金狂時代」がこの年封切られた。現実を皮肉りながらたくさんのギャグを作り出すチャップリンの才能は、ここでも大いに発揮され、ゴールドラッシュという時代状況を皮肉な角度からみごとに描き出した。

またフランスの巨匠、アベル・ガンス監督の「鉄路の白薔薇」も、この年の公開。鉄道事故の場面を背景に、父親と息子、本当の子ではない娘の三者が複雑にからむ愛情物語が展開する傑作だった。なおD・W・グリフィス監督の「素晴らしき哉人生」も公開され話題になった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「紙人形春の囁き」（岡田時彦）／「狂った一頁」（井上正夫）

マツダ映画社提供（3点とも）

▶勤皇の意気に燃える、火消しの寅松を演じた、「乱闘の巷」の阪東妻三郎。

▲「鉄路の白薔薇」で、愛に悩む父親（左、セブラン・マルス）と、自分の娘として育ててきた女性（右、アイヴィ・クローズ）。

▲「黄金狂時代」で、飢えに苦しみ、自分のブーツをビフテキに見立てて食べる、チャップリンの抱腹絶倒のシーン。

モノ語り'26
「キンカン」「スモカ歯磨」、洗濯石鹸の「マルセル」身のまわりの必需品にもアイディア続出！

◀**世界の電球を変えた大発明**　煌煌と光る電球が世界の照明事情をがらりと変えたが、電球の寿命のほかに、まぶしさという問題が残っていた。このまぶしさを解消した「内面つや消し電球」が大正14年に東京電気（現・東芝）で開発され、この年話題になっていた。同社研究所の不破橘三技師が、乳白色の〝娥ガラス〟を開発し、これを電球に応用したもの。世界で初めてのすりガラス電球だった。

東芝科学館蔵／服部晶一郎

▼**ハイテク高級万年筆の登場**　万年筆の技術開発に取り組んでいた並木製作所（現・パイロット）は、この年の3月、T型自吸式の第1号万年筆として「高級時絵万年筆」を発売した。T型自吸式というのは、本体の胴の部分に金属製のテコをつけて、これを引き上げると胴の中のゴム製チューブが押され、テコをもとに戻す時につぶれていたゴムチューブが膨らんでインキを吸い上げるというもの。〝T型〟は〝テコ式〟を意味していた。写真は婦人用。

▲**石鹸を使ってごしごし洗濯していた**　この頃の洗濯は普通、たらいと洗濯板のセットを用いて行われていた。分厚い洗濯石鹸を薄く削いだものを衣類につけ、洗濯板にこすりつけたり揉んだりして洗った。その洗濯石鹸でポピュラーだったのが「マルセル」で、花王石鹸（現・花王）からは1個20銭で発売されていた。なお、この「マルセル」の名は、当時の世界的な石鹸の産地、マルセイユに由来している。

花王資料館蔵

▶**タバコ屋で売る歯磨粉**　寿屋（現・サントリー）が、現金取引のできる新しい販路を求めて大正14年に開発したのが、タバコ屋で売る歯磨粉「スモカ歯磨」だった。タバコ屋で売ってもらうのだから、喫煙者用の歯磨粉でなければならず、タバコのヤニを取る原料を入れ、その名もスモーカーにちなんで「スモカ」とした。1個15銭。発売元はその後、寿屋から新会社・寿毛加に移った。

スモカ宣伝マン物語

「スモカ」の開発にたずさわったのは、当時寿屋の広告部にいた片岡敏郎で、販売作戦からネーミング、宣伝広告まで、とにかくその開発時からずっとスモカとともにあった人だった。昭和8年に発売元が寿屋から新会社・寿毛加に移った時も、それにあわせて自分も寿屋を退社し、寿毛加の取締役に名をつらねることになった。

移籍してからも、もちろんスモカの宣伝広告は氏の仕事であり、スモカと言えば片岡敏郎、というほど、宣伝広告やデザインの世界では有名な組み合わせになった。

◀昭和二年の新聞広告。片岡敏郎は、大正一四年からの一六年間にスモカ歯磨の広告、約一二〇〇点を残した。

▲**チョコレートの本格的生産始まる**　この年9月に、明治製菓から「明治ミルクチョコレート」が発売された。ドイツ人のチョコレート技術師、ロバート・キャスパリを招き、そのレシピを使って機械による大量生産を行い、チョコレート市場の拡大をはかった。発売当時の新聞広告には「驚異に値する明治チョコレート生まる」とあり、その香り、栄養、色合いなどが強調された。価格は当時の盛りそば1杯と同じ10銭が基本で、ほかに20銭、70銭のものもあった。

▲**万能外用薬開発の夢が結実した**　海軍の衛生兵だった山崎栄二は、朝鮮半島に渡って、年来の夢だった万能外用薬の開発に取り組み、ついに緑色をした透明液「キンカン」を完成した。おもにアンモニア、メントール、カンフルの3成分からできており、痛みやかゆみを軽減し、打ち身、捻挫に効く薬だった。ちょうどその頃、近くの山から古代の金冠が発見され話題になっていたこともあって「キンカン」と命名、発売元も金冠堂とした。これがベストセラーとなり、ロングセラー商品となっていった。

▲静岡県興津町（現・清水市）の別邸、坐漁荘の前で。大正八年の入居以来、ほとんどをここですごし、次期首相の推薦など、元老としての役割をはたすため、愛用の杖をついてしばしば上京した。 毎日新聞社

人物クローズアップ

西園寺公望（七七）

「朕カ躬ヲ匡弼」と信頼された最後の元老への〝期待と限界〟

大正天皇の崩御から三日がすぎた昭和元年一二月二八日、新天皇が初めて臣下を接見する朝見の儀が、宮中・正殿で行われたが、同じ日、元老・西園寺公望（七七）に、天皇から次のような勅語が下された。

「朕カ躬ヲ匡弼シ朕カ事ヲ弼成セヨ」

すなわち、今までどおり、元老として自分を助けるようにとの勅語である。

西園寺が元老となったのは、大正元年一二月二一日の勅語によってだが、実質的に元老の一人に加わったのは翌大正二年、護憲運動の高まりから、第三次桂内閣が五三日間で総辞職した、いわゆる「大正政変」の頃からである。元老は天皇の私的な顧問として、国の重要事について の諮問を受けることを任務としたが、大正に入ってからの任務は、後継内閣の奉答が主たるものとなった。

大正一一年に山県有朋、一三年に松方正義が亡くなると、元老は西園寺一人となった。政党内閣の確立をめざす西園寺は、〝憲政常道（二大政党による政権の交替）〟に基づきながら、その時々の状況を踏まえつつ首班を選ぶ姿勢をとった。

昭和になっての、元老としての最初の出番は、昭和二年、憲政会の若槻礼次郎から政友会の田中義一への、後継首班奉答だった。

西園寺公望は、嘉永二年一〇月二三日（一八四九年一二月七日）、徳大寺公純の次男として生まれた。幼名は美麿。徳大寺家は五摂家に次ぐ九清華家のひとつで、公卿の名門である。三歳の時、同じ清華家のひとつ西園寺家の養嗣子となった。養家に入って四ヵ月後、養父の師季が病死、そのため名を公望と改め、西園寺家の当主となった。

西園寺と明治維新政府とのかかわりは、戊辰戦争で山陰鎮撫総督になった時からである。二〇歳だった。公家社会の因習になじめない西園寺は、明治四年、フランスに留学する。このフランス留学は、その後の西園寺に大きな影響を与えることになった。自由主義者としての西園寺を形成したことである。政治の世界に入ったのは、明治二七年の第二次伊藤内閣の文相が最初である。後、枢密院議長などを歴任、三六年には伊藤博文に代わって、立憲政友会の総裁をつとめた。

〝最後の元老〟としての西園寺は、キングメーカーとして重きをなしたが、それは犬養毅首相が「五・一五事件」で凶弾に倒れるまでの期間にすぎない。以降、軍部の横暴が日に見えて激しくなると、西園寺の意向は薄められ、昭和一二年の宇垣一成内閣流産後は、内大臣の奏薦に同意を与えるだけの役割になった。

政治学者の升味準之輔氏は、西園寺が元老としてはたそうとした役割を、次のように語る。

「それはまず第一に、皇室を非政治化すること、そして政争の外におくことでした。そして、できれば政党政治がうまく機能すればいいと思ってはいましたが、しかし、政党を信用していなかった」

西園寺の最後の望みは近衛文麿だった。軍部をおさえ、憲法を順守し、国を正しい方向に導く切り札として、西園寺は近衛に期待した。しかし、軍部に引きずられる近衛にその望みも断たれ、昭和一五年一一月二四日、九〇年の生涯を閉じる。

▼西園寺公望は、各界の名士と広い交遊があった。写真は明治40年、文士を招いた時のスナップ。左から田山花袋、国木田独歩、大町桂月、柳川春葉、広津柳浪、泉鏡花、島崎藤村、川上眉山、塚原渋柿園、西園寺、一人おいて森鷗外、幸田露伴、後藤宙外、巌谷小波、徳田秋声。

毎日新聞社

飛行時間二・五秒、距離五六メートル「近代ロケットの父」ゴダードの宇宙への夢"第一歩"が成功!

一九二六年三月一六日、アメリカ・マサチューセッツ州オーバンの農場では、雪が積もり、強い風が吹いていた。防寒具に身を固めたクラーク大学のロバート・ハッチングズ・ゴダード教授(四四)が雪原の中に立ち、三メートルほどの鉄枠の構造物に手を添えている。この装置が液体燃料ロケットであることは、現代の紡錘形をしたロケットを見慣れている私たちにはわかりにくい。

写真の一番上にある筒状のものがロケットエンジン(燃焼室とノズルのある部分)で、二本のパイプで下にある液体酸素タンク、ガソリン・タンクへとつながっている。上部にある円筒と下にある円筒とは無関係に見えるが、実はパイプでつながった、ひとつのロケットの機体だった。なぜこのような構造になったかというと、機体全体の重心をエンジンより下に持ってくることにより、飛行の安定をはかろうとしたためである。

助手が火のついた棒でエンジンに点火すると、何秒間かエンジンが火を吹き、推進剤(ガソリンと液体酸素)が減少すると、ロケットは突然、横っ飛びをして地上に落下した。飛行時間は二・五秒、飛行距離五六メートル、最高時速九〇キロであった。なんだ失敗したのか、と思われるような実験であるが、二・五秒とはいえ、液体燃料でロケットが空中を飛んだということは大成功であった。ゴダードは「ロケットは案外大きな音や炎を出さずに上昇していった。『待ち遠しかったよ、もう行ってもいいね』と私に語りかけているかのようだった」と日記に書きつけている(『宇宙へのはるかな旅』的川泰宣著、大月書店)。この日の実験は、液体燃料ロケットが理論から実践へと飛躍する、記念すべき日となったのだ。

液体燃料ロケットの研究は、二〇世紀に入ってから本格的に始まるが、その先駆的な人としてまずあげられるのがソ連のツィオルコフスキー(一八五七〜一九三五年)だ。彼は、耳の聞こえない貧しい中学教師であったが、地球の重力を振り切って無重力の宇宙へ飛び立つには、秒速一一・二キロの速度が必要であり、そのためには液体燃料ロケットでなければならないこと、また多段式ロケットが必要なこと、などの理論を一九〇三年に出版した人である。このツィオルコフスキーより二五歳若いゴダードは、子どもの頃に読んだジュール・ベルヌのSF小説「地球から月に」(一八六五年発表)に興奮して、一七歳の時から宇宙旅行の研究に没頭し始め、以来、勉強を重ねてきたのだ。彼はスミソニアン協会からのわずかな財政援助をたよりに、液体燃料を使ったロケットの発射実験を世界で最初になしとげた。

ゴダードは、この日の実験で使用したロケットを改良して二号機を造り、さらに実験を重ねた。一九二九年にはジャイロスコープで姿勢制御された五メートルのロケットを、飛翔時間二〇秒で高度一六〇〇メートルまで打ち上げた。彼の研究成果は、一九六〇年に、特許二一四件がアポロ計画のため政府に買い取られるという形で評価される。しかし、こうしたこともゴダードの死後一五年のことであり、当時のロケット打ち上げへの夢は、まだ変わりものの"夢"にしかすぎなかった。

ノーボスチ通信社

▶液体燃料のロケットを最初に考案した、ソ連の中学教師、ツィオルコフスキー。

◀オーバンの農場で、液体ロケットを設置するゴダード教授。彼は奇人扱いされながらもその構想を実らせ、世界初のロケット発射という栄誉を手にした。

CORBIS-BETTMANN PPS

「はつなつのかぜとなりたや」棟方志功を開眼させた一枚！川上澄生、「初夏の風」を発表

大正一五年三月、東京・上野の日本美術協会で第五回国画創作協会展が開かれ、版画家の川上澄生（三〇）は木版画「初夏の風」「月の出」の二点を出品した。初期の代表作である「初夏の風」は、中央に洋装の婦人を配し、その上に淡緑色で風を刷りこんでいる。左右には「かぜとなりたや」で始まる詩が書かれ、詩と造形が微妙に交わっている。版画家であると同時に、詩人としての川上の資質がいかんなく発揮された傑作である。

この「初夏の風」に顔をすりつけるようにして「ああ、いいなァ」と呆然と見入っている男がいた。「ワだばゴッホになる」と言って青森から上京し、油彩画に挑んでいた棟方志功（二二）である。

棟方は大正一三年から帝展に応募するが、相次ぎ落選。師を持たず、「私だけで始まる世界を持ちたい」と考えていた棟方にとって、油絵のあり方、自分の作品が認められない官展のあり方に対し、腑に落ちないものを感じていた頃である。川上の「初夏の風」は、棟方の心を揺さぶり、版画家に転身させる強烈な契機となったのだった。

「川上澄生氏の『はつなつの風』の作風、ほんとうに、新しい世代に立った作品として、わたくしに板画の妙韻を、ふたたび身体に入れてくださったものでした」と棟方は自著『板画の肌』（河出書房）に記している。

昭和六年に創作版画倶楽部から刊行された棟方の処女版画集『星座の花嫁』では、題材・作風ともに川上の影響を強く受けている。しかしながら、川上にとって南蛮風俗や明治の文明開化は、制作上の根源的なモチーフであり、生涯のテーマであったが、棟方の志向はそこにとどまらなかった。棟方は『星座の花嫁』を刊行した後、十和田旅行に出かけ、これをきっかけに、ハイカラ趣味から離れ、独自の世界を切り開いていった。

棟方を版画界に転身させた川上澄生とは、どんな人物だったのだろう。

明治二八年四月一〇日、川上は横浜で生まれた。父は「横浜貿易新報」の主筆である。土地柄からか、澄生は横浜浮世絵に強い興味を持っていた。青山学院高等科を卒業した翌年の大正六年、父親の勧めでカナダ旅行に出発。途中、アメリカに足をのばしてシアトルのペンキ屋で働いたり、アラスカの缶詰工場で働くなど、およそ一年間、放浪の旅を続けた。

帰国後、日本創作版画協会に出品し、深沢索一、平塚運一、恩地孝四郎ら版画家たちとの交流が始まるが、川上が本格的に制作にかかるのは、大正一〇年以降、栃木県立宇都宮中学校に英語教師の職を得てからである。宇都宮市郊外の鶴田に新築した二間の家を、イタリアの一四世紀の文学者ボッカッチョにちなみ「朴花居」と命名した。しばしばここを訪れた版画家の関野準一郎は、『わが版画師たち』（講談社）の中で、川上澄生の作品のほとんどが心に残っている、と敬愛をこめて記している。

「その月給は欲張らぬ澄生を脱俗の画家に仕上げてゆく。当時は、版画家という職業では食えなかったけれども、澄生は版画をパンに替える必要はなかった。夜や休日は、ゆっくり好きな詩と版画を趣味として、版木に刻んでゆけばよい」

この「朴花居」での深夜におよぶ制作の中から、詩画集『青髯』（昭和：年）、『ゑげれすいろは』（昭和五年）、『変なリードル』（昭和九年）など、文明開化の懐かしさとロマンに満ちた作品集が生み出される。

「私の故郷は文明開化の日本である。（略）も早や地球上の何処にもない文明開化の日本の裡にある。なつかしきその風物の中に私は私の幼年時代少年時代を追想するのである」（絵本『ランプ』）と記す川上は、さらに昔の文明開化、南蛮紅毛の時代も呼び寄せてくる。

平成四年九月、栃木県鹿沼市に鹿沼市立川上澄生美術館がオープン。宇都宮中学の教え子で、版画の最初の弟子・長谷川勝三郎氏が収集した二〇〇〇点を超す川上作品をもとにした美術館である。今や川上の作品は、版画ファンの間では高嶺の花である。その作品の全貌を、ここで見ることができる。

▲「初夏の風」。大正15年。木版多色刷り、22.8×34.9センチ。詩と絵を組み合わせて、独自の版画世界を築いた初期の代表作。みずからを風に託した澄生の女性に対する想いが、淡い色彩でさわやかに描かれている。

◀大正一二年、宇都宮中学野球部が、栃木県の大会で優勝した際に。前列右から二人目が川上澄生。

鹿沼市立川上澄生美術館提供（4点とも）

▶「初夏の風」下絵。大正一四年頃。鉛筆、一四・七×二〇・二センチ。ここでは、文頭に「われは」と主語が書かれているのが注目される。

▶私家版詩画集『青髯』から「わが願い」。「初夏の風」の詩の原形と思われる作品が収録されている。

▲100平方メートルほどのスペースに、自社製品から世界のアンティークまで高価な銀器が並んでいる。 但馬一憲（4点とも）

20世紀博物館

世界の銀器館

刻印から作り手にたどり着くなど、アンティークが持つ数々の〝ヒストリー〟

東京・台東区

桑原茂夫

この「世界の銀器館」は大淵銀器という銀器製造・販売会社が、ショールームを発展させて小博物館にしたもの。

だから、現在販売中のちょっとした銀器もあれば、外国のアンティークや手のこんだ大型のものまで、いろいろな銀器がケースにおさめられている。

銀器と言うと、せいぜいが、スプーンなどの食器と小説「レ・ミゼラブル」でジャン・ヴァルジャンが教会から持ち出した銀の燭台を思い浮かべるくらいのものだったから、ずらっと銀器が並んでいるのを見ても、初めのうちは圧倒されるだけだった。

▲銀器のアンティークがところ狭しと並べられたコーナー。右端に立派な燭台も見える。

ところが、本場イギリスのものをはじめ、イタリアやメキシコ、トルコといった国々の銀製品には、それぞれにストーリーがあって、意外な側面が浮かび上がってくるのである。

イギリスのものには「ホールマーク」という刻印がある。この刻印から見えてくるものが面白い。イギリスでは、銀製品について昔から国家レベルでの純度管理を行ってきており、そこで得た保証がこの刻印なのだが、その管理は、銀製品を作る職人個人にもおよんでおり、刻印から作り手の個人情報にたどり着くことができるのである。

職人の強固なギルド（同業者組合）が作られていたこともあって、現在でもしかるべきところへ行くと、三〇〇年前の職人に関する個人情報を手に入れることができるのだという。その職人がいつ独り立ちしたか、いつ結婚し子どもが産まれたかといった個人情報である。銀器が貴族のステータスシンボルだったわけが、こんなところからもうかがえる。貴族は自分の使う銀器を製作した、職人の〝ヒストリー〟まで手に入れることができたのである。けた違いに豪勢な話ではないか。

さらに、イタリアの凄腕の職人による豪華な製品からは、この国というか地域に脈々と流れる職人魂のようなものが感じられて、ここでもまた、しばし立ち止まって眺めいってしまう。

▲イタリア製の豪華な銀器。すべて手作りで、浮き彫りのようになっている部分も、銀をこつこつとたたいて作り上げている。

▲日本の銀器。この「世界の銀器館」を運営している大淵銀器の製作によるもの。

ところで、銀器には浄水能力が強いという特徴がある。最もポピュラーな浄化物質とされる塩素の一〇倍もの効力を持っているそうで、だから教会の聖水は銀の容器に入れられ、いつでも新鮮なのだという話になる。そういう目で大きな銀器を見ると、魔法の壷にでも出合った気分になるのである。

また、銀は毒に反応しやすいという性質を持っている。ヨーロッパの貴族が銀食器で客をもてなすのは、毒など入れていませんよという証でもあり、最高のもてなしを意味していたという。ここまでくるとアンティークの銀器から何やらきな臭い話が漂い出てきそうで、一層面白くなってくる。

こぢんまりとはしていても、いろいろの歴史を感じさせるにぎやかな博物館であった。

●世界の銀器館
東京都台東区東上野三―一―一三
㈱大淵銀器内
☎〇三―三八四七―七七一一
地下鉄銀座線稲荷町駅下車、徒歩一分。
またはＪＲなど各線上野駅下車、徒歩七分
開館時間＝九時半～一七時
休館日＝土、日曜日、祝日、年末年始
入館料＝無料

軍隊内での部落差別糾弾闘争に当局の陰謀
水平社・松本治一郎以下15人を検挙！
でっちあげられた「福岡連隊爆破未遂事件」

▲福岡第24連隊内に組織された、被差別部落出身兵士たちによる「兵卒同盟」。軍隊内の相次ぐ差別に闘いを挑んだ。 福岡部落史研究会提供

軍隊では、被差別部落出身者に対する差別が、公然と行われていた。部落解放を掲げる全国水平社はこの〝軍隊内差別〟と戦ってきたが、その頂点が福岡連隊で起こった差別糾弾闘争であった。いっこうに具体的解決策を講じない軍隊に、水平社の運動は盛り上がる。だが、それに対して露骨なでっちあげ事件がくわだてられ、空前の弾圧が強行されたのである。

軍隊内で公然の差別 大衆的糾弾運動開始

「〝エタは盗人みたいなものだ〟〝どんなに美人で金持ちであろうが、自分はエタの女とは結婚しない〟。このような暴言を黙認すべきだろうか。否！　否！　絶対否！　同人諸君よ起て！　福岡二四連隊内の差別を一掃すべく、起て！」

大正十五年六月十七日、全国水平社九州連合会は、全国の水平社にこう、檄を飛ばした。陸軍歩兵第二四連隊（福岡）の被差別部落出身者たちが、冒頭のような差別的侮辱を受けたためである。

部落解放を推進してきた水平社にとって、軍隊内の差別は大きな問題であった。当時の軍隊では「エタ」や「ヨツ」などといった差別用語が公然と横行しており、

▲全国水平社中央委員会議長・松本治一郎。一生を解放運動にささげる。 松本龍提供

▲松本治一郎は当局のでっちあげにより、昭和4年5月から7年12月まで入獄。写真は昭和4年5月10日、入獄する松本を見送る300人の人々。 福岡部落史研究会提供

▲大正11年11月20日、未決で獄中にいた松本治一郎が出した手紙。 福岡部落史研究会提供

そればかりか差別は昇進や配属にまでおよんでいた。被差別部落出身者はどんなに優秀でも将校にはなれず、与えられる任務も、輸送係や靴の修繕係といった扱いが低いものがほとんどだった。軍隊という階級社会で、被差別部落出身者は最下層におかれ、上官から虐待された。一般兵たちは、憂さを晴らすために彼らを「いじめ」ていたのだ。

「軍隊での被差別部落出身者に対する差別は、一般社会以上の厳しさでした。過酷な状況に耐えかねて、脱走したり自殺する兵士が跡を絶たなかったのです」

と言うのは、福岡出身の組坂繁之・部落解放同盟中央本部書記長である。

実際、朝鮮守備隊の被差別部落出身兵が窃盗の濡れ衣を着せられてリンチを受けたり、丹波篠山の歩兵第七〇連隊で差別に抗議した兵士が逆に鉄拳制裁を受けるなどの事件が、続発していた。埼玉県のある村では、シベリア出兵で戦死した被差別部落出身者が、忠魂碑に「英霊」として名前を刻まれなかった、というケースもあった。福岡連隊の差別はけっして特殊なケースではなく、当時の軍隊の風潮を如実に表した事件であったのだ。それだけに、被差別部落出身者の憤激は高まっていたのである。

福岡連隊での差別の実態を知った全国水平社九州連合会は、二月六日、同連隊に事態の根本的改善を要求した。しかし、連隊側はこれを拒否。その後も差別事件が続出した。そして同年一〇月、連隊自身による差別事件が勃発する。

同月、福岡連隊は県内長糸村周辺で射撃演習を行った。演習時には近隣の民家を宿舎とするのが慣例で、連隊は長糸村に投宿した。しかしなぜか同村内の被差別部落には一兵も宿泊せず、九州連合会は「福岡連隊自身が差別した」と憤激。この事件は大きな反響を呼び、労農党県連や労組、そして農民組合も水平社支持を表明した。ついに福岡連隊糾弾闘争は、大衆的な高まりを見せたのである。

権力が爆破陰謀を捏造 松本以下一七名が有罪

一一月一二日早朝、福岡県警察部は、全国水平社議長・松本治一郎（三九＝後の初代参議院副議長）の福岡市の自宅ほかを、爆発物取締罰則違反などの容疑で家宅捜索した。その結果、松本宅から綿火薬の入った茶缶三個やダイナマイトのようなものが「発見」された。警察は松本と水平社同人ら一五人を逮捕、一二人を起訴した。容疑は「松本らは、福岡連隊の営内にダイナマイトを投じ、局面を打開しようとした」というもの。

だがこの事件は、不審な点があまりにも多かった。まず最も有力な証拠とされた火薬類だが、これは当局のスパイと目される人物が「自分が持ちこんだ」と自白したため、判事は「証拠能力なし」と判断。そのため裁判の焦点は、松本宅捜索時に発見されたとされる「水平社のメンバーがダイナマイト購入を依頼した手紙」に移った。ところがその手紙は、捜索前に福岡県特高課が入手していた事実が予審調書にはっきりと書かれており、火薬類同様、でっちあげの可能性が高かった。また連隊襲撃が謀議された日時についても、検察側は主張を転々と変えたが、そのすべてにおいて松本のアリバイは立証された。ほかにも、家宅捜索を指揮した検事が調書上では三ヵ所の捜索に同時に立ち会ったことになっているなど、辻褄のあわない点が次々と明らかになったのである。でっちあげは明白だった。

しかし、判決は検察側主張をほぼ全面的に採用し、全員有罪であった。懲役三年六ヵ月を宣告された松本は、こう言った。「正気で言っているのですか」と。

前出の組坂氏はこう語る。

「当時の権力は、水平社運動の高まりをおそれたのです。兵士に水平社の思想が浸透して軍隊のやり方に疑問を抱くようになれば、軍の規律が乱れますからね。そのため架空の襲撃事件を作り、有罪判決を下して運動をつぶそうとしたのです」

大正一一年に全国から七〇〇人を集めて結成された全国水平社は、またたく間に組織を拡大。三年後には早くも七〇〇以上の支部を設けるまでに成長していた。糾弾した差別事件も一年間で一〇〇〇件を超え、解放運動はすさまじい盛り上がりを見せていたのである。当局はこれに危機感を募らせ、大正一四年に治安維持法を制定するなど、水平社つぶしに躍起になっていた。そんな時起こったのが、福岡連隊事件だったのである。

この判決により、福岡連隊糾弾闘争は頓挫を余儀なくされた。しかしこの思想は後に受け継がれ、翌昭和二年、名古屋における陸軍大演習会場で、被差別部落出身の北原泰作二等卒による天皇直訴事件に発展していく。

▲「福岡連隊爆破未遂事件」の被告たちは、一致して、でっちあげ事件に抗した。写真は昭和3年、被告たちの激励会。 福岡部落史研究会提供

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▼大阪に新手の口入れ屋（7月）加盟会員から月20銭徴収、女給に衣服や装身具を貸与、求人先に女給を斡旋した。この種の周旋業者は、昭和13年の職業紹介国営化で姿を消した。

朝日新聞社

▲政友本党総裁・床次竹次郎夫人、取り調べ（6月20日）松島遊廓疑獄事件で収賄容疑の党務委員長・高見之通の証人として、大阪検事局が召喚。写真は尋問後、大阪ホテルで。

朝日新聞社

▲新潟県で大洪水（7月28日）未明からの豪雨のため河川が氾濫、中でも栃尾町では全域で1300戸が床上浸水となり、倒壊・流失家屋多数、死者・行方不明者百余人に達した（写真）。蒲原郡では田畑が冠水、そのほか各地で崖崩れ、山崩れなどが起きた。

▼浜口雄幸内相、東京「復興」を視察（7月12日）若槻内閣の改造で、蔵相から副総理格の内相になった。昭和4年にはみずから内閣を組織、「ライオン宰相」と愛称された。

「国際画報」

▼「警察を廃止するな！」（7月18日）長野県で、警察署統廃合に反対する県民が善光寺に集まり気勢（写真）。一万数千人が知事官舎などを襲い、862人が検挙された。

毎日新聞社

▼ブルーノ・タウト設計の「大団地」（7月29日）ベルリンに建設途中の様子を、独専門紙が紹介。集合住宅を環境に調和させ、ワイマール文化の遺産と評価された。タウトは後年、日本に滞在、日本美の再発見者として知られる。

ユニフォト・プレス

朝日新聞社

▲第12回全国中学野球大会に「プレヨグラフ」登場（8月）球場に行けない人のために、京阪神数ヵ所に設置。野球ゲーム盤のようなものだったが、黒山の人だかりとなった。

木挽社提供

▲吉川英治（34）、「鳴門秘帖」執筆（8月）「大阪毎日新聞」に連載。美男剣士や隠密が活躍する伝奇ロマンが人気を呼び、一躍大衆文壇の花形に。右は挿絵担当の岩田専太郎。

毎日新聞社

▲人見絹枝、走り幅跳びで世界新（8月28日）スウェーデンで開催された第2回国際女子陸上で、5メートル50を記録。100メートルなどにも活躍して総合優勝もはたし、19歳の華麗なデビューを飾った。

▼完成間近の阪神国道（7月）写真は、尼崎上空からの風景。大阪・神戸を結ぶ主要幹線として、翌年開通。幅27メートル、中央を複線の阪神電鉄が走った。工業育成、海岸地帯市街化に大きな役割を担った。

朝日新聞社

「国際写真情報」／国際フォト

▲米女性がまたドーバー遠泳（8月27日）元米五輪水泳選手が、6日に女性初の横断に成功。今度は2児の母が完泳、大喝采をあびた。写真は水中でチョコレートを摂取するコルソン夫人。

「国際画報」

▲海軍、新型飛行船「N 3式」購入（8月25日）アムンゼンが北極点上空を飛んだ、ノビレ大佐設計のものを小型化。全長約80メートル、乗員7人。しかし、飛行機の進歩により昭和6年、実用を断念した。

大正15年7月

1（木）●郡役所廃止。●カナダ、金輸出を解禁。
2（金）●静岡県熱海・初島沖に鯨の大群が出現。
3（土）●東京で売られているパン・ビスケットに、土を混入して増量した例が続々、と新聞に。
4（日）●ナチス、再建後初の大会をワイマールで開催。
5（月）●阪急電鉄、大阪市内高架線の運転を開始。
6（火）●江木法相、松島遊廓事件で閣僚にも予審の尋問がおよぶ情勢とし、閣議の了解を求める。
7（水）●大阪地裁、床次政友本党総裁を松島遊廓事件で予審尋問、深夜におよぶ。
8（木）●英国で、七時間労働を八時間労働に変更する「炭鉱法」が成立。
9（金）●寄席の圧力で、落語家のラジオ出演がむずかしくなっている、と新聞に。
10（土）●新光社、『万有科学大系』（全一八巻）刊行開始。
11（日）●中国で北伐軍が長沙を占領。
12（月）●文芸家協会など、警視庁の相次ぐ発禁処分に反対し、「発売禁止防止期成同盟会」を結成。
13（火）●シュペングラー著・村松正俊訳『西洋の没落』刊行。
14（水）●全日本アマチュア拳闘連盟、創立。
15（木）●栃木県那須に御用邸が完成。
16（金）●阪神電鉄、甲子園線の一部営業を開始。
17（土）●警視庁はプール・海水浴場の水質検査を本年から開始する、と新聞に。
18（日）●長野市で警察署統合・廃止反対県民大会が暴動化、知事官舎などを襲撃し八六二人検挙。
19（月）●愛媛県警、借金僅少の娼妓一〇人解放を命令。
20（火）●東京・日比谷で「幸福の手紙」初検挙。
21（水）●兵役の特例を公布、成績により期間を短縮。
22（木）●朝鮮・忠清北道各地で堤防決壊、死者多数。
23（金）●朴烈事件の金子文子が獄中で自殺。
24（土）●東京モスリン亀戸工場で二〇〇人が食中毒、病中の賃金支払いなどをめぐり争議に発展。
25（日）●東京府の大島・神津島に水道が完成。
26（月）●東北帝大学生ら二人、竹馬で富士山に登頂。
27（火）●地主団体、小作法制定に関し希望条項を陳情。
28（水）●仏で、ポアンカレの挙国一致内閣成立。
29（木）●朴烈夫婦が予審調室で寄り添う「怪写真」が東京市内各所に配布され、問題化。
30（金）●在大阪朝鮮人労働団体、機会均等求める声明。
31（土）●ベルギー、財政危機解決のため、国王に六ヵ月間の独裁権。

大正15年8月

1（日）●岩手県・釜石鉱山が磁力探鉱を実施。
2（月）●日本楽器の争議に憲兵隊が出動。
3（火）●田中寛一『教育的測定学』刊行。学力テストを客観的に実施する方法を研究。
4（水）●秋田県下に豪雨、本荘町では三〇〇〇戸浸水。
5（木）●三井物産は創立五〇年記念で半期の利益全額約四〇〇万円を社員などに分配、と新聞に。
6（金）●東京・大阪・名古屋放送局が合同し、「日本放送協会」設立。受信者数三三万八二〇四人。
7（土）●政府、横浜の伝染病対策に二万円の支出決定。
8（日）●大都市の伝染病、一位は腸チフス、と新聞に。
9（月）●大審院、夫にも貞操義務と新判例。
10（火）●郵便年金令公布（10月1日、制度スタート）。
11（水）●東洋紡績争議。外出の自由、強制送金の廃止などを嘆願。工場閉鎖でストを打てず。
12（木）●福井市に幕末の志士・橋本左内の銅像が完成、と新聞に。
13（金）●八木秀次、「八木アンテナ」の特許取得。
14（土）●東京・芝浦の花火が一五年ぶりに復活。
15（日）●仏、国際収支悪化で関税を一律三割引き上げ。
16（月）●三菱合資会社、北樺太鉱業を設立。西岸で炭鉱開発を行う。
17（火）●京阪電鉄で電車が正面衝突。三十余人重軽傷。
18（水）●東京の同潤会青山アパートは、西洋間が三五円、日本間が二八円、と新聞に。
19（木）●東京に豪雨、一二〇〇戸が浸水。
20（金）●千葉県久賀村で四人を殺傷した岩淵熊治郎が山林に逃亡（鬼熊事件。9月30日、自殺）。
21（土）●群馬県林務課一行が利根川水源確認と新聞に。
22（日）●南アで、世界最大のダイヤモンド鉱脈発見。
23（月）●茨城無煙炭坑が破産。従業員五〇〇〇人失業。
24（火）●新潟港で荷揚げ船が転覆、一五人死亡。
25（水）●大阪の淀川大橋が完成、開通式。
26（木）●米・ワーナー映画、トーキーの公開実験に成功。
27（金）●今夏の北アルプス登山者は一万人、うち一割が女性、と新聞に。
28（土）●デ杯インターゾーン決勝、日本はフランスに三対二で惜敗、アメリカへの挑戦権を逃す。
29（日）●人見絹枝、第2回国際女子陸上競技大会（スウェーデン）で個人総合優勝。
30（月）●三ヵ月間の賃金未払いが続く上毛モスリンに対し、内務省が支払いを強制指示。
31（火）●農民団体が、小作農地の耕作権を最低二〇年間存続するよう要求する決議。

「写真通信」

▲横浜港でタンカー炎上（9月13日）修理のためドックに入っていた「光洋丸」（約1万トン）の二つの重油タンクが、大音響とともに爆発・炎上。13時間燃え続け、船員・労働者ら11人が死亡。原因は自然発火とされた。

毎日新聞社

▲ドイツ、国際連盟に加入（9月8日）ジュネーブで開かれた総会で満場一致で承認、常任理事国入りも決まった。これで、欧州の安全保障確立をめざす、ロカルノ条約発効の条件が整った。

▼デンプシー、敗れる（9月23日）冷静なタニー（顔）の前に7年間世界ヘビー級王座を守ってきた強打も空ぶり。万博会場の「150年祭スタジアム」を埋めた12万人の予想をくつがえした。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▼スウェーデン皇太子来日（9月2日）グスタフ・アドルフとルイーズ妃が横浜港到着。考古学に造詣が深く、スポーツマン。滞日中突然上野博物館を訪問、日光ではヨット競走に参加するなど、人々に自由で行動的な印象を残した。

朝日新聞社

▼救世軍のブース大将来日（10月11日）「父の遺訓に従って」と語り、日本救世軍の創設者・山室軍平と握手。14日には東京・日比谷公園で多数の歓迎を受けた。

「写真通信」

「写真通信」

▶山陽線特急、転覆（9月23日）豪雨のため広島県の安芸中野駅付近の線路が流され、東京発の機関車・客車が次々脱線。死者34人、重軽傷者39人の惨事となった。

大正15年9月

1（水）●日本の前年人口増は八七万人で新記録と判明。
2（木）●伊・イエメン友好通商条約調印。イタリアは紅海への進出を企図。
3（金）●浜松市議会選挙。初の普通選挙（二五歳以上の男子）により実施。
4（土）●最低気圧七二八の台風が東日本を縦断、各地で強風被害が続出し、死者多数。
5（日）●米国のフォード社、八時間労働・週五日制導入。
6（月）●税制改正で東京近郊の地主に恐慌、税額が五〇〇倍になる貸家経営も、と新聞に。
7（火）●盲人用点字郵便物の料金を低減。
8（水）●独、国際連盟に加盟、同時に常任理事国となる。
9（木）●ニューヨークでNBC放送、設立。
10（金）●仏のミッシェル、ドーバー海峡横断遠泳に一一時間五分の世界記録樹立。
11（土）●テニスのデ杯戦で、米国が七連覇。
12（日）●山形県の郡是製糸工場で、監督者排斥の争議。
13（月）●横浜港でタンカーが爆発、三十余人死傷。
14（火）●廃娼運動に反対する貸座敷業界の代表が、矯風会・廓清会に押しかけて威嚇。
15（水）●内務省、児童扶助法案の基礎資料として、六大都市で寡婦調査を実施。
16（木）●奄美大島を台風直撃。四〇〇〇戸以上が全半壊し、一〇〇人近くが死亡・行方不明。
17（金）●マイアミにハリケーン、三七〇人が死亡。
18（土）●福島県吾妻山で、女子師範学校生徒一三〇人が遭難、案内人含め四人死亡。
19（日）●新潟県阿賀野川で、発電所工事員二人を乗せた船が転覆、四人死亡、一三人行方不明。
20（月）●京大の学生一六人、社会科学研究で無期停学。
21（火）●内務省、工場寄宿舎改善要綱案を諮問。土間式食堂・二人で一枚の布団の禁止など。
22（水）●日本伝染病学会、設立。
23（木）●山陽線で特急列車が転覆、死者三四人。
24（金）●衣笠貞之助監督「狂った一頁」封切。フラッシュバックなど駆使した新感覚派映画。
25（土）●強盗殺人の「ピス健」に死刑宣告。
26（日）●東京で、神経痛の痛みに逆上した患者が往診の医師を日本刀で刺し、重傷を負わせる。
27（月）●偽造馬券で十数万円荒稼ぎの男が逮捕される。
28（火）●鉄道省・京浜線電車に、自動ドアが登場。
29（水）●横浜税関、パイナップル缶詰・カミソリを密輸していた二人に総額四万円の罰金・追徴金。
30（木）●仏・独など、欧州鉄鋼カルテルを結成。

証言・あの日この日
広津和郎（35）

12月25日（土）〈晩に、私の家で七面鳥を食べようということになって、尾崎君や宇野さん／その他に誰がいたか、とにかくみんなに集まって貰うことにして、その頃大森に望翠楼ホテルと云って十九世紀の英国にでもありそうなホテルがあったが、そこで七面鳥を丸焼きにして貰うことにして、料理の来るのを待っていると、大正天皇崩御の報が伝わった〉（広津和郎『年月のあしおと』）

広津和郎は、その頃、大森に家を新築して住んでいたが、この日はちょうど、クリスマスということで、尾崎士郎や宇野千代をはじめ、近所に住む友人たちが集まって、七面鳥を食べる計画だった。しかし、突然、大正天皇崩御の報が伝わる。〈そこで賑やかにクリスマスを祝って食べようと思っていた七面鳥を、遠慮しいしい食べなければならなくなった〉のだった。（山崎行太郎）

朝日新聞社

▲明治神宮外苑、完成（10月22日）聖徳記念絵画館前でおごそかに奉献式が行われ、摂政宮より「御沙汰書」が下賜された。写真は式典にのぞむ摂政宮。苑内には絵画館のほか、憲法記念館、野球場、相撲場などがあった。10年の歳月と800万円の工費が投入された。

▼全国廃娼同志大会が開催（10月1日）婦人矯風会、廓清会などが主催、賀川豊彦らが加わり、東京・日本青年館で約500人が「公娼制度廃止」を叫んだ。写真正面は林歌子、その左・ガントレット恒。

共同通信社

▼和宮五十年忌（10月1日）霊廟の東京・芝増上寺で盛大な法要。天皇の妹として徳川将軍と政略結婚、「維新の犠牲者」とたたえられていたため、若槻首相、女学生ら参拝者で大にぎわいとなった。

「グラヒック」

「グラヒック」

▲張作霖軍将校が日本留学（10月8日）安国軍総司令を名乗る軍閥の巨頭の命令で、三十余人が陸軍諸学校入学のため東京駅着。前列左から二人目が、リーダーの参謀兼教育長・欒雲奎。

「グラヒック」

▶久々に東西合併相撲（10月7日）明治43年以来「絶交」していた、東京と大阪の力士が同じ土俵に。写真は前日、大阪の特設会場の土俵祭。12月には大日本相撲協会も発足。

大正15年10月

1（金）●米国でノースウエスト航空会社設立。
2（土）●音声学会、創立（会長・新村出）。
3（日）●ウィーンで第一回汎ヨーロッパ会議開催。欧州の統合をめざし、二四カ国が参加。
4（月）●「国産品宣伝汽車博覧会」の列車が、東京・汐留駅を出発。一一月一二日まで各地をまわる。
5（火）●山田耕筰との軋轢で日本交響楽協会を脱退した近衛秀麿、「新交響楽団」を結成。
6（水）●ロンドンで六〇〇万ドルの東京市外債が成立。
7（木）●伊で、ファシスタ党が唯一の合法政党に。
8（金）●満鉄、初めて頁岩から油を製出。
9（土）●石川島造船の神野信一ら、石川自彊会を結成。日本主義労働運動を開始。
10（日）●中国で北伐軍が武漢を攻略。
11（月）●救世軍司令官のブース大将来日。
12（火）●警視庁、古電柱利用の割箸生産は有害と禁止。
13（水）●帝展の日本画部門で一九一点の大量入選、陳列不可能とわかり、審査員は大あわて。
14（木）●ソ連、日本に不可侵条約締結を提案（この頃、ソ連は各国と同種条約締結を積極化）。
15（金）●東京で、「体育と衛生の展覧会」開催。
16（土）●政府、日本医師会と健康保険医療契約を締結。
17（日）●藤井健次郎、染色体の二重螺旋構造を発見。
18（月）●米紙、レーニンの遺書を掲載。トロツキーとスターリンの性格をズバリ指摘して評判に。
19（火）●英帝国会議開催、本国と自治領の平等を宣言。
20（水）●歌曲を日本語でと提唱した声楽家・永井郁子が、琴・尺八の伴奏で歌う試みに挑戦と新聞に。
21（木）●皇族の学習院以外の学校への就学が可能に。
22（金）●明治神宮外苑の整備が終了、奉献式。
23（土）●ソ連共産党、トロツキーを政治局から追放。
24（日）●労働農民党で、左派への門戸開放めぐり紛糾、右派の日本労働総同盟などが脱退。
25（月）●内務省、工場労働者対象に、災害予防、労働衛生などの講演会を初めて開催。
26（火）●東京・浅草で、地下鉄工事により道路が陥没。
27（水）●日本放送協会の「全国放送網建設五カ年計画」が認可される。
28（木）●早大、早慶相撲優勝賞品の日本刀を盗まれる。
29（金）●日活映画・阿部豊監督「足にさはつた女」封切。アメリカ的なタッチで評判に。
30（土）●第三回汎太平洋学術会議、開催。一九カ国から一五一人が来日（～11月9日）。
31（日）●伊で、ムッソリーニ暗殺未遂。

毎日新聞社

▶米国でNBC開局(11月11日)巨大通信会社RCAが設立。全国にラジオ放送網を組織し、ネットワーク放送に先鞭。写真は15日の記念放送。ソテロ(右)らの「100万ドルの四重唱」を流した。

CORBIS-BETTMANN／PPS

◀戦艦「三笠」、永久保存(11月12日)軍縮による解体をまぬがれ、横須賀の海岸に固定、日本海海戦の勇姿をとどめることに。写真は記念式での摂政宮(左)と東郷元帥。

朝日新聞社

▲京浜新国道開通(11月28日)東京―横浜を結び東海道へつながる幹線道路として工事を急いでいたが、ついに完成。道路幅約22メートルは旧道の3倍で、車道部分は片側7メートル、植樹帯もある近代的道路だった。

『国際写真情報』国際フォト

▲モギレフスキー、帝劇を魅惑(11月27日)ロシアのバイオリンの巨匠の技巧、情熱に聴衆は大喝采。写真は前日、東京駅で(左)。昭和6年再来日し、諏訪根自子らを育て上げた。

毎日新聞社

▼婦人運動セミナー、開催(11月)婦人運動家・奥むめお(31)らの職業婦人社が主催。毎月、全国各地から職業婦人が集まり(写真)、意識向上をめざした。

朝日新聞社

▼豊島園が開園(11月)東京・練馬に残る武蔵野、石神井川の自然を生かして造成。約5万坪。宝塚同様、武蔵野鉄道(現・西武鉄道)が乗客増をねらって計画した。写真は、名物の「大階段」。

朝日新聞社

▲ベスビオ火山、20年ぶり大活動(12月)イタリアのナポリ東方約12キロにある火山で、西暦79年にポンペイを火山灰の下に埋没させたのをはじめ、大噴火を繰り返してきた。

◀労働農民党再建(12月12日)左派加入に反対する総同盟など5団体が脱退、日本共産党の影響下、左翼政党として組織を立て直した。委員長・大山郁夫。写真は結党大会。

毎日新聞社

▼「円本時代」始まる(12月3日)改造社が「現代日本文学全集」全37巻(後63巻に)を配本開始。1冊1円だったため、「円本」と呼ばれ、予約35万部という空前のブームとなった。

先づ一圓を投ぜられよ!!

豫約締切 十一月三十日

發行所 東京市芝區愛宕下町 改造社

袖山健一所蔵

▼高野山金堂が全焼(12月26日)早朝出火、2層の大伽藍が焼け落ち、経蔵、孔雀堂、納経所も類焼。国宝の本尊薬師如来像など、多数の宝物を焼失した。原因は、堂守の暖房の火の不始末だった。

▶総合造形学校「バウハウス」、デッサウ市で再開(12月4日)ドイツの建築家・グロピウスらが1919年に工芸・意匠・建築の刷新をめざして設立したが、前年、保守勢力の圧力で閉鎖されていた。

ユニフォト・プレス

朝日新聞社

▼隅田川の新永代橋渡り初め(12月22日)大震災の災禍からやっと復興。大正天皇が病気療養中のため、質素な式典が行われた。長さ185、幅22メートル。木橋から近代的鉄橋に変身。

尾形光彦提供

大正15年 11月

1(月)●寺尾文子、陸上女子一〇〇㍍で一二秒七の世界新記録。

2(火)●スペインのカタロニアで、自治要求し蜂起。

3(水)●京都の青果店が、赤芋に硫酸をかけて上等の白芋に見せかけ販売し逮捕される、と新聞に。

4(木)●潜水艦に飛行機を搭載する計画を進めている海軍が、近く実艦で実験の予定、と新聞に。

5(金)●富山県、県民保健の見地から、帰郷した女工に対する健康診断の徹底を通牒。

6(土)●山形県最上川で渡船が転覆、二〇人死亡。

7(日)●大阪地裁、松島遊廓事件で首相に予審尋問。

8(月)●米国初のカーフェリーがニューヨークで就航。

9(火)●英国炭鉱ストの総決算、損害三億ﾄﾞﾎﾟﾝと判明。

10(水)●甲府市で、結婚に反対された男が親類三人を殺傷、本人も割腹自殺。

11(木)●ノーベル文学賞に英国のバーナード・ショー。

12(金)●松本治一郎ら全国水平社の幹部一五人、「福岡連隊爆破陰謀事件」をでっちあげられ検挙。

13(土)●東京の飼い犬は四万五〇〇〇頭、野犬は一万頭で、狂犬被害四四六人、死者六人と新聞に。

14(日)●シカゴ―ロサンゼルス間に特急「チーフ」号。所要六三時間で、展望車などを連結。

15(月)●理化学研究所、ピストンリング製法特許取得。

16(火)●大阪俸給生活者組合、設立。

17(水)●東京天文台の及川奥郎、小惑星三個を発見。

18(木)●豊田自動織機製作所、設立。

19(金)●逓信省、電力各社に過当配当を警告。

20(土)●政府・日銀、鈴木商店・日本製粉救済のため、八〇〇万円ずつの資金援助を決定。

21(日)●横浜市内全域で工場のモーターが約一時間四〇分にわたり逆回転。変電所のミスと判明。

22(月)●スターリン、一国社会主義建設を説く。

23(火)●警視庁は、警察官の増員分五〇〇人をすべて郊外に配置する計画、と新聞に。

24(水)●三菱製紙、職工の勤務時間を一〇時間に改善。

25(木)●警視庁、「東京帝大卒」の偽看板が目にあまるとして、産婆組合に警告。

26(金)●中国国民党左派、武漢遷都を決議(蔣介石は南昌を主張)。

27(土)●伊・アルバニア、相互援助条例に調印。イタリアのアルバニア保護領化が進む。

28(日)●東京―横浜を結ぶ京浜新国道が開通。

29(月)●近松門左衛門ゆかりの大阪・文楽座が全焼。

30(火)●日本ラグビー協会、設立。

大正15年 昭和元年 12月

1(水)●大阪中央放送局、本放送を開始。

2(木)●千葉県大湊海岸で、漁船転覆、六人不明。

3(金)●英紙、「独軍がソ連で訓練受けている」と暴露。

4(土)●米トンプソン報告、フィリピン独立延期勧告。

5(日)●東京・麹町に、日光浴室を持つ小学校が落成。

6(月)●広島県の織物工場で、女工六人の争議。

7(火)●東本願寺法主・大谷光演、破産宣告受ける。

8(水)●江戸川乱歩、「一寸法師」を「朝日新聞」に連載開始。

9(木)●日本労農党、結成。中間派の無産政党。

10(金)●長野県で母子九人、七月に経営難から自殺した父の後を追って心中。

11(土)●沼津市で大火、中心部七〇〇戸焼失。

12(日)●労働農民党、左派無産政党として再編。無産政党の三派鼎立が確定。

13(月)●徳川義親が自邸で舞踏会。天皇重体の折から不謹慎と問題化。

14(火)●不景気で市税の二〇㌫が滞納と東京市。

15(水)●警視庁は、一二歳以下の少年に一二時間以上働かせていた大企業を続々摘発、と新聞に。

16(木)●常設の映画館は全国で一〇九二軒、年間入場者は延べ一億六〇〇〇万人、と新聞に。

17(金)●葉山で闘病中の天皇の病状悪化、閣僚も葉山に集中し、閣議も旅館で開く状態、と新聞に。

18(土)●生糸相場が暴落、全国の製糸会社が年内休業。

19(日)●天皇病状悪化で劇場など休場相次ぐと新聞に。

20(月)●買い物客などでにぎわう東京・銀座で、午後一一時頃出火、大混乱。商店など一七棟全焼。

21(火)●後藤新平の斡旋で、政友会と政友本党が提携。

22(水)●群馬県の製糸工場で、解雇された女工一三人が復職要求し争議、五人復職。

23(木)●警視庁ボーナス支給。巡査・五三～六〇円、巡査部長・六六～八〇円、警部・七〇～一三〇円。

24(金)●東京の有権者は普選導入で五倍に、と新聞に。

25(土)●天皇崩御、大正天皇と追号。摂政宮裕仁親王が践祚し、「昭和」と改元。

●「東京日日新聞」、新元号を「光文」と誤報。

26(日)●高野山金堂など全焼、薬師如来像など焼失。

27(月)●陸軍機密費事件の田中義一ら、不起訴と決定。

28(火)●東洋拓殖ソウル支店に独立派朝鮮人が爆弾。

29(水)●ドイツの詩人・リルケが死去。五一歳。

30(木)●大阪地裁、松島遊廓事件の予審終了。六人起訴、若槻首相・床次政友本党総裁ら不起訴。

31(金)●東京で陸軍少佐が、天皇の死に殉じ自殺。

俄楽多市

流行語
奇っ怪な時代をズバリ表現

「怪」。大逆事件の首謀者とされた朴烈と金子文子が獄中で一緒に並んだ写真が出まわり〝怪写真〟として騒がれた。それをまねて、大げさな風刺漫画が「怪漫画」、汚職の噂などが「怪聞」など〝怪〟という字がいろんな形で使われた。

「円タク」。一円タクシーの略で、東京市内ならどこまで乗っても料金が一円だったところから、こう呼ばれた。円タクはこの年、大阪に登場、東京にも春頃から現れ大流行した。

「諒闇」。天皇が父母の喪に服することで、期間は一年。それに準じて国民も浮かれはしゃぐことを慎しむことを求められる。大正天皇の崩御に際して、政府は六日間の歌舞音曲の停止を命じたが、興行関係者はすでに一二月一八日から自主規制していた。

「銀ブラ犯罪」。銀ブラを楽しんでいる人をねらった犯罪という意味で、〝置き引き〟や〝かっ払い〟のこと。中には、エレベーターに乗っている間にすり取るエレベータースリというのもあった。

日本漫画資料館提供

▲「漫画雑誌」7月1日号に掲載された八木原捷一作「海水浴」。夜店で売られるような安物の水着を着る女性を、からかった作品。

CM100年

新聞CM「充実せる内容権威ある編輯……──新家庭日記」(鈴木商店、現・味の素)

大正十六年
新家庭日記
充實せる内容權威ある編輯
正に是現代婦人必備の日記
特色
附録
發兌 味の素本舗 鈴木商店出版部

▲献立と料理法を中心にした家庭日記の広告。天皇崩御以前の出版で、大正16年と記されている。

住
空き家の氾濫で定期券のサービスも

東京郊外には、いたるところに貸し家があふれているが、どこもなかなかふさがらず、中にはラジオつきとか、一年の契約者には省線(現・JR)の定期券を進呈するなど、鳴り物入りで宣伝している。それでも新築家屋が一年もふさがらず、いたずらに風雨にさらされている。

(「万朝報」一二月一七日)

レジャー
二九日間世界一周 過去の記録を三日間短縮

(ニューヨーク発)世界早まわり旅行のウェルズ、エバンス両氏は、七月一四日午後四時、首尾よく出発地・ニューヨークに到着。二八日一四時間三〇分という世界一周の記録を作った。今日までの記録は一九一三年、ジョン・ミーア氏の三一日二一時間三五分である。

(「都新聞」七月一六日)

女性
横浜の三つの高女運動競技への意見

横浜市内の三つの高等女学校に、運動競技の是非について尋ねた。その答えは、次のとおりだった。

「女子運動競技に関する意見なんかない。ただ良妻賢母主義」(神奈川県立高女)

「競技会でやるようなヤンキー・ガール式のものや対外マッチ式のものは考えもの。礼儀を重んじ、古式のよい風習を保存する範囲で取り入れたい」(私立神奈川高女)

「過激な競技は生理的に女子に影響をおよぼすはずで、ランニング、ハードルなどは不適当。テニスやバスケットがよい。女子競技選手からはどんな子どもが生まれることでしょう」(フェリス女学院)

(「横浜貿易新報」四月一九日)

データ
男優のトップは〝阪妻〟スターの人気比べ

映画俳優の人気を見るには、絵はがきの売れ行きを調べるのが一番という。東京市内の代表的絵はがき店について調べたところ、最近の売れ行きは次のとおり。

	男優	女優
①	阪東妻三郎	松井千枝子
②	市川百々之助	砂田 駒子
③	中村 英二	岡田 嘉子
④	鈴木 伝明	マキノ輝子
⑤	東坊城恭長	英 百合子

(「読売新聞」五月一五日)

▲この年、キリンビールの横浜工場が落成し、祝賀会が行われたが、大倉土木から贈られた巨大なビール瓶とコップが人目を引いた。

「嗜好」/明治屋提供

はやり歌

この道

作詞 北原白秋
作曲 山田耕筰

この道はいつか来た道
ああ そうだよ
あかしやの花が咲いてる

あの丘はいつか見た丘
ああ そうだよ
ほら白い時計台だよ

この道はいつか来た道
ああ そうだよ
お母さまと馬車で行ったよ

あの雲はいつか見た雲
ああ そうだよ
山査子の枝も垂れてる

日本近代文学館提供

▲北原白秋の代表的な作品。雑誌「赤い鳥」大正15年8月号に発表され(写真)、長い間愛唱されることになった名曲。

鉾をおさめて

作詞 時雨音羽
作曲 中山晋平

鉾をおさめて 日の丸あげて
胸をドンと打ちゃ 夜あけの風が
そよろ そよろと
身にしみわたる

灘の生酒に 肴は鯨
樽を叩いて 故郷の歌に
ゆらり ゆらりと
陽は舞いあがる

金の扇の 波 波 波に
繩のたすきで 故郷のおどり
男 男の
血はわきあがる

エンヤッサ エンヤッサ
ヤンレッサ ヤンレッサ
おどりつかれて 島かと見れば
母へ 港へ みやげの鯨

福田俊二提供

◀雑誌「キング」大正一五年一月号に掲載され、昭和三年七月、レコード化。藤原義江が豪快に歌ってヒットした。

三面記事
キッスは鼻から口へ発達した

(コペンハーゲン発)デンマーク・コペンハーゲン大学のニロップ博士が、キッスに関する面白い研究を発表した。

それによると、キッスは恋愛やそれに類する感情の発露として、広く深い意味を持っているが、その根源は嗅覚と味覚に関係するという。なめる本能が発達して鼻と鼻をこすり合わせる鼻キッスが始まり、さらに味覚の本能によって、今日、欧米人の行っている口キッスへと移行したというのである。ポリネシア人の間では今もって鼻キッスが行われているが、その様子は、猫がお互いの臭いをかぎ取るために行うのとそっくりで、嗅覚時代の名残りだろうと博士は言う。またヨーロッパではキッスはすでに因襲的な礼式となっているが、アフリカやアジア東部の諸人種間ではキッスはまったく行われない。これは、人類としてヨーロッパ人より進歩しているのかもしれないというのが博士の説である。

(「時事新報」八月一六日)

▶この年一〇月一六日、早稲田大学社会科学研究会主催で開かれた産児制限講演会のポスター。山本宣治も講演した。

社会
銀座のもうひとつの〝花〟拾い屋流行!

日本一豪華な街、銀座だが、半面、銀座でなければ見られぬ珍商売として〝拾い屋〟がある。彼らは未明の銀座に現れて、前夜の雑踏に落ちた銭を、時計を、ネクタイピンを拾い歩く。拾ったものはわがものと、これを取引人に売り渡すのだ。

彼らは浮浪者とまぎらわしく、正確な数はつかめないが、よく見ていると、ごみ箱をあさり、料理屋の裏口に忍び寄ることはあっても、けっして物乞いはしない。そこに彼らの意地、浮浪者との違いを見ることができる。

ただし最近は落とし物もせち辛い。ある拾い屋によると「昨日なんざ、松屋の横で財布を拾ったけど、中味はたった二四銭。これじゃおでんのひとつも食えば終まい」。

彼の持っているカゴをのぞくと、たしかにメリンスの小切れや紙クズばかりだった。

(「報知新聞」一二月一九日)

風俗
男湯に女〝三助〟東京で相次ぎ出願

築地署に、管内の銭湯から「男湯に女〝三助〟をおいていいか」と問い合わせがあり、同署から警視庁保安課に照会してきた。同課には、数週間前にも巣鴨署などから同じ問い合わせがあり、いい加減な返事をしたが、こう重なると女〝三助〟の機は熟しているとして、本気で取り組むことになった。なお〝三助〟は現行法では職業ではないから、女〝三助〟を使うのも勝手。取締りには、風俗上悪いと難癖をつけるしかないという。

(「読売新聞」一二月二七日)

T・KITAHARA COLLECTION

◀この年発表された、ぜんまい仕掛けの器械体操人形「ブランコ」。一個一ドルで、アメリカへさかんに輸出された。

▶全関東写真連盟主催で、一月二五日から、東京・銀座の松屋呉服店で開かれた全関西写真大サロン。大盛況だった。

朝日新聞社

この年の初もの
ファスナーつきジーンズ 米国・リー社から発売

●**窓ガラス保険** 高価な窓ガラスが壊れた時に補償するもので、商工省が東京海上火災保険に認可。

●**角膜移植** 六月一八日、鹿児島県立病院の緒方清躬眼科医長が成功。

●**高原療養所** 長野県富士見高原に開設。標高約一〇〇〇メートル、広さ約一〇ヘクタール。所長は、医学博士で小説家としても有名な正木不如丘。

●**無線通話** ニューヨーク─ロンドン間で成功。

世界の動き

「シーク」「血と砂」など主演作すべてがヒット
二〇世紀の〝女性の永遠の恋人〟ルドルフ・ヴァレンチノ急逝！

◀「椿姫」(1921年作)で、当時のトップ女優、アラ・ナジモヴァとの情熱的なラブ・シーン。

今から七十数年前、無声映画全盛期のハリウッドにセンセーショナルに現れ、忽然として消えたスーパー・スターがいた。この輝く星は、三一歳の若さでこの世を去る。全世界の女性は、彼の死を悼んで泣いた。〝キング〟と呼ばれたクラーク・ゲーブルや、急逝を惜しまれたジェームズ・ディーンが、束になってもかなわぬ人気だった。

人気の頂点での急逝に全世界の女性は涙した

一九二六年八月二三日午後一二時一〇分、ルドルフォ・アルフォンソ・ラファエロ・ピエレ・フィリベルト・グリエルミィ・ディ・ヴァレンティナ・ダントノオラという「ギネスブック」に載りそうな名前の青年が、ニューヨークで死んだ。

芸名はルドルフ・ヴァレンチノ。三一歳。チャールズ・チャップリン（三七）、ダグラス・フェアバンクス（四三）などと並ぶ無声映画の大スターで、エキゾチックな容貌、情熱的な雰囲気、華やかさと哀愁を感じさせる軽やかな身のこなし、暗さは、数多くの女性映画ファンの心をしびれさせた。この一七〇・三センチ、六九・九キロ、褐色の瞳で黒髪の伊達男は、男性にとってのマリリン・モンローのように、女性にとって最高のセックス・シンボルであった。

胃潰瘍という、およそ超二枚目にはふさわしくない死因だったが、抜け目のないヴァレンチノの新聞係、ハリー・C・クレムフスは、新聞社を動かして、国民的規模のセンセーションを演出した。

遺体安置所の悲嘆シーン、ブロードウエーでの葬式の行列などは、あらかじめ用意された写真が使われ、実際の葬列が出発する前に新聞に掲載されていた。

葬儀は八月三〇日、ニューヨークのキャンベル教会でとり行われた。この日、ニューヨークの路上は泣き崩れる女性の悲しみと熱射病で卒倒する女性が続出し、声で満ちた。一一ブロックにわたって列ができたほどの大群衆の整理には一〇〇人の警察官があたって、暴動まがいの騒ぎを鎮めたが、多数の怪我人が出た。葬列の後には、二八足の女物の靴が路上に散らばっていたと言われる。

人気の頂点での急逝に、全世界の女性は涙した。新聞の誇大宣伝で、葬儀はみごとな追悼式となり、彼の出演作品は再び大ヒットすることになる。ヴァレンチノは、多額の借財を残して死んだが、死後、彼の映画は借金を返済してもなお差し引き六〇万ドルの儲けを生んだ。

▲8月30日、ニューヨーク・キャンベル教会で行われたヴァレンチノの告別式。「写真通信」

ルドルフ・ヴァレンチノは一八九五年五月六日、南イタリアのカステラネートに生まれた。父親はイタリアの軍人で、母親はフランス人。イタリアでは、先祖からの名門の誇りを代々の当主の名に重ね加える。冒頭に紹介した驚くべき本名は、彼が名門の出という証明である。

彼が一一歳の時、父親が病死したため、収入は母親の内職だけ、この名門一家は三度の食事にもこと欠くような窮乏生活を強いられる。働かなければならなくなったヴァレンチノは、初め軍人を志したが、素行不良でくび、農業につけば、主家の金を使いこむといった案配で、常軌を逸した悪童ぶりだった。

一九一三年、一八歳のヴァレンチノは大西洋を渡ってアメリカに移民するが、これはいわば居心地の悪くなった祖国からの逃走と言うべきだろう。

小悪党のダンサーから一夜で銀幕のスターに

「アメリカの男性は、女性に対して間違った憶測をしている。宝石や美しい絹製品の方が愛撫より優先すると錯覚して、彼らは奴隷のように働き、金を得るのに躍起となっている。だから、だめなんだ」

これは大スターとなったヴァレンチノ語録のひとつである。天性の美貌を武器に、女性から小遣銭をかすめとるジゴロの経験があればこその台詞であろう。ニューヨークに着いたヴァレンチノは、売れないダンサーだった。ジゴロであり、窃盗、恐喝を繰り返しながら糊口をしのぐ小悪党でもあった。結局ニューヨークからも逃げ出したヴァレンチノは、地方巡業のミュージカル一座に加わり、ハリ

▲アラビアの首長のロマンスを描いた「シーク」(1921年作)。

▲ニタ・ナルディーと共演した「血と砂」(1922年作)。
THE KOBAL COLLECTION/G.I.P. Tokyo

作家・ハクスレーが日本で出会った“まがいもの”と“本物”

佐伯 修

「我々が神戸へ上陸したときは、どんよりと曇っていて、空気は冷たく煤煙の臭いがしていた。街は深いぬかるみであった。上陸すると間もなく雨が降りはじめた。（中略）ぬかるみの上にたかく、竹馬のような木靴をはいて、小さな男たちが街を漕ぎ歩いている。彼等は鼠色か茶の絹のトンビを羽織り、安物のフエルト帽をかぶっていた」（上田保訳『東方紀行』）

英国生まれの作家オルダス・ハクスレー（一八九四～一九六三）が、インド、マレー諸島、アメリカをめぐる旅の途中、最初の妻・マリアとともに日本へ立ち寄ったのは、前年の一九二五年春のこと。右の引用は、この年に刊行された旅行記『ピラトの戯言』（邦題『東方紀行』）からだが、神戸の第一印象は、桜の季節にもかかわらず、「一一月のさなか」の「スコットランドのリース」のように寒々としたものだった。「竹馬のような木靴」とは、下駄のことであろう。

鉄道で京都へ向かったハクスレーの目には、工場の煙突の林の根元に木造家屋が密集した、大阪をはじめとする日本の都市の光景は「樹の根元にむらがる茸」のように映り、京都は、カウボーイや砂金掘りが群がる「よく映画で見る鉱山町」に似ているように見えた。また、「安物や擬いもの、にせものや模造品、俗悪品や安ピカ物」ばかり目について「本物や堅実品や本当の純良品までが薄っぺらでにせものに見え」てしまう京都の商店街は、「巨大なウールワース勧工場（量産品を均一価格で売る米国のチェーン店）」みたいだとも言っている。

「工場、煤煙、無数のウールワース、ぬかるみなど――これが日本なのか」いや「『本当の』日本はなにか違ったものであり、何処かほかのところにある」はずだ、と思いたかったハクスレー夫妻は、横浜から再び出航するまでに、「フジと田園生活、伝統的な踊りと教養ある有閑紳士」といった、彼らが「『本当の』日本」と感じうるものと出会えた。「が、現在歴史に進出しているのは、本当でない日本、廉価品の大量生産者である。この国の政策を指導している者は舞妓でもなければ、教養があって宗教的な紳士でもない。（中略）日本の将来は、他のあらゆる国と同じようにこの『本当でない』日本の姿にかかっている」

六年後、ハクスレーはSF小説『すばらしい新世界』でハイテク管理社会を予測して痛罵、晩年は精神世界の探求に没頭する。そして、一九六三年のジョン・F・ケネディ暗殺と同じ日、末期癌の彼はLSDでトリップしつつ世を去った。

▲医学を志したが、18歳で盲目に近い状態となり、文学に転向した。

ウッドに行く。この二度目の逃走劇が、無名のイタリア人を一夜で世界のトップスターにするきっかけとなった。

ハリウッド映画の舞踏シーンのエキストラなどして、端役がつき始め、女流脚本家として著名なジューン・メーシスの目にとまり、「黙示録の四騎士」の主役に抜擢された。彼のダンサーとしての素質も見抜いていたメーシスは、原作にないタンゴ場面をこの映画に挿入した。アルゼンチンタンゴのシーンでステップを踏み出した瞬間こそが、ヴァレンチノ時代の幕開きであった。ヴァレンチノは、ハリウッドで爆発的人気の早川雪洲（当時・三二歳）のプロダクション入りを希望して拒否されるが、皮肉なことに、雪洲が出演を断った「シーク」の主演で、彼の人気が大ブレイクする。

その後「血と砂」「椿姫」「情熱の悪鬼」「ボーケル」「荒鷲」、最後の作品となった「熱砂の舞」などが発表された。おもな主演作品は一二本、中には他愛のない作品もあったが、ヴァレンチノ人気で映画はすべてヒットした。

もちろん日本でも大人気だった。大正一四年発行の『世界映画俳優ブロマイドカタログ』には、二五三枚のヴァレンチノのブロマイドが掲載されている。ほかの俳優が大体一〇〇枚くらいだから、いかにずば抜けた人気だったかわかろうというものだ。

女性を虜にした妖しげで背徳的な雰囲気は、彼がバイセクシュアルであったためとも言われる。「ボーケル」撮影中に、天井から照明係の助手が、彼をめがけてホモを意味するパンジー・輪を投げたことが新聞にすっぱ抜かれたり、最初の結婚で、花嫁が初夜に逃げ出したことなどが、その根拠とされたが、事実は闇の中である。

「ホモ説は映像の中から広がった伝説という感じですが、彼には今見ても、謎めいていて、ぞくぞくするようなエロチシズムがあります。二〇世紀の女性の永遠の恋人と言ってもいいでしょう」

と映画評論家の白井佳夫氏は語る。

ヴァレンチノはハリウッドメモリアルパークに葬られている。今でも、毎年八月二三日午後一二時一〇分、追悼式が墓のかたわらでとり行われている。

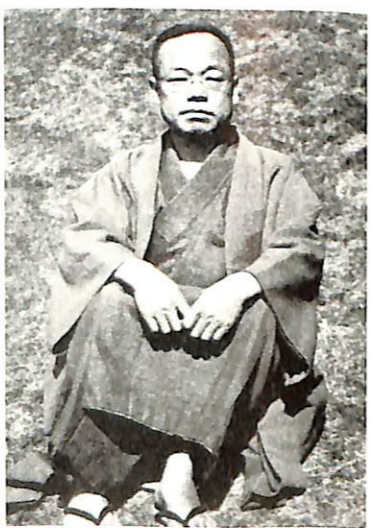
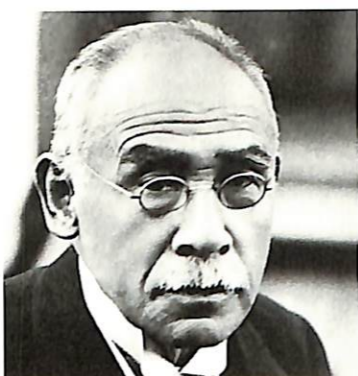
R・ヴァレンチノ（1895～1926）
一九二〇年代ハリウッドの美男スター。イタリア生まれ。「黙示録の四騎士」でスターの座に。ほかの作品に「シーク」「血と砂」など。三一歳で夭折。

CORBIS-BETTMANN　PPS

▶撮影のロケ先から、特別列車で告別式会場へ駆けつけた女優のポーラ・ネグリ。当時、ヴァレンチノの愛人という噂も出ていた。

往きて還らぬ

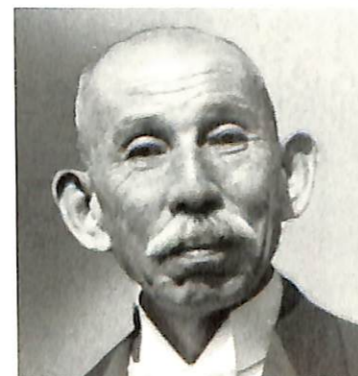
▲1月10日　跡見花蹊(85)
女子教育者で、宮中の女官教育も行う。明治8年跡見女学校（後の跡見学園）創設、伝統的教養の育成を重んじた。

毎日新聞社

▲1月15日　小栗風葉(50)
小説家。明治25年尾崎紅葉の弟子となり、紅葉門下の“四天王”と呼ばれた。31年「恋慕ながし」で好評を博した。

▲1月28日　加藤高明(66)
明治から大正期の外交官、政治家。岩崎弥太郎の女婿。大正13年首相となり、治安維持法、普通選挙法を成立させた。

毎日新聞社

▲3月2日　15代目住友吉左衛門(61)
実業家。明治26年15代目を継ぎ、別子銅山を基礎に事業拡大に成功、住友を三井・三菱と並ぶ大財閥に築き上げた。

毎日新聞社

▲3月27日　島木赤彦(49)
歌人。教師を経て大正3年「アララギ」の編集を担当、以後同誌のリーダーとなる。歌集『馬鈴薯の花』（共著）など。

▲4月7日　穂積陳重(69)
法学者、元東大教授。英・独に留学。明治21年初の法学博士となり、26年民法起草に参画。大正14年枢密院議長。

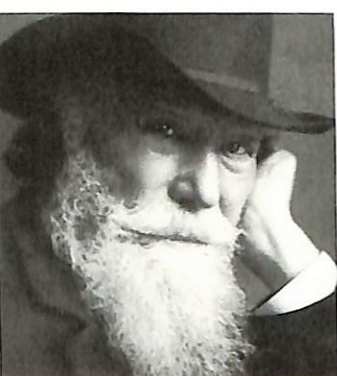
▲4月17日　尾崎放哉(41)
俳人。東大卒業後保険会社に入社するが、まもなく退職。放浪の俳人となり、名句「咳をしても一人」などを残す。

オリオン・プレス

▲6月10日　アントニオ・ガウディ(73)
スペインの建築家。バルセロナのサグラダ・ファミリア聖堂の建築が有名で、遺骸はこの聖堂の地下に葬られた。

▲9月11日　尾上松之助(50)
日本最初の映画スターで、明治42年「碁盤忠信」でデビュー。以後1000本以上に出演。“目玉の松ちゃん”と呼ばれた。

▶11月21日　半井桃水(65)
小説家。新聞記者のかたわら「唖聾子」「胡砂吹く風」を発表、好評を博す。樋口一葉の小説『にごりえ』のモデル。

オリオン・プレス

▲12月2日　K・J・エーベルト(91)
独の解剖学者で、細菌学の先駆者。チューリヒ大、ハレ大教授を歴任、1880年コッホと同時に腸チフス菌を発見した。

▲12月5日　クロード・モネ(86)
仏の画家で印象派の代表的な一人。明るい画風で水辺の風景などを好んで描いた。代表作「睡蓮」（連作）など。

▲12月29日　R・M・リルケ(51)
独の詩人。彫刻家・ロダンの秘書もつとめた。代表作に詩集『ドゥイノの悲歌』、小説『マルテの手記』など。

ミニ事典
1926年のキーワード

こども博覧会
大正天皇の初孫・照宮成子さんの誕生を記念、震災後の文化復興の気運にこたえて、東京日日新聞社が一月一三日に東京・上野公園で開催した博覧会。皇族や徳川将軍が使用した玩具、ラッセル式除雪車やアプト式電気機関車の模型などのほか、「子どもの部屋」「母の家」「栄養館」などのパビリオンを設け、協賛各社が趣向を凝らして子どもを楽しませる展示を競った。

「写真通信」

▲開会当日の「こども博」会場。準備期間1ヵ月たらずというあわただしいイベントだったが、人気は上々だった。

福本イズム
共産党は前衛として高い理論を持ち、労働者階級を指導して行くべきだとする福本和夫の理論。二月一二日発刊の著書『社会の構成並に変革の過程』で展開。党は労働者・農民の中に入り、労農大衆の結合をはかるべきだという、それまでの理論的指導者・山川均の主張を徹底的に批判。左翼陣営内で人気を得るが、翌年、モスクワでコミンテルンに批判され、あっさり自説を撤回した。

陸軍機密費横領事件
元陸軍大臣・田中義一の政友会入りの際に、陸軍機密費が持参金に使われたとされる事件。衆議院で憲政会代議士・中野正剛が三月四日、元陸軍大臣官房付二等主計の告発書を読み上げ、暴露した。陸軍省に保管されていたシベリア出兵の機密費の残りを公債に換え、これを担保に金融業者から三〇〇万円を借金、持参金にあてたとされる。関係議員を査問に付す動議が可決されたが、結局、軍の圧力でもみ消された。

無産政党
労働者・農民など、被支配階級の利益を代表する社会主義政党。前年の普通選挙法成立を背景に、日本農民組合が労働組合や政治結社に対して単一無産政党の結成を提唱。この年三月五日、左右対立激化の中で労働農民党が結成された。しかし、左派の加入で分裂、一二月に右派が社会民衆党、中間派が日本労農党を設立、三派が鼎立し、労働農民党は共産党の表の顔となった。

▲労組員の生活支援のため、共産党系の合法紙「無産者新聞」を立ち売りする女性。

「中山艦」事件
国民革命軍第一軍軍長・蔣介石が三月二〇日、突然、広州に戒厳令を敷き、沿岸警備艦「中山艦」の艦長ら共産党員の乗組員多数を逮捕、ソ連顧問団宿舎の護衛隊を武装解除した事件。蔣は、同艦の艦長らがソ連の陰謀で自分を拉致する手はずだったため事前に手を打ったと主張。この事件を契機に国民党中央執行委主席におさまり、国民革命軍から周恩来ら共産党政治委員全員を追放した。

電気大博覧会
電気の知識の普及とその関連産業振興を目的に、三月二〇日から五月末まで、大阪市で開催された博覧会。内外から出品された最高水準の電気機械・器具、三万五〇〇〇点が展示された。家電製品は特に入場者の関心が高く、「万能七輪」と宣伝された電熱器の実演などは黒山の人だかりとなった。エネルギー源としての電気への期待は大きく、新しい時代の到来を感じさせた。

青年訓練所
尋常小学校卒業者で、徴兵検査前の青年を対象とする教育機関。前年に軍縮を実施した陸軍が、将来の幹部候補生を確保するために計画、文部省に整備を要請した。四月二〇日、法令公布、七月一日、全国一万三八五二ヵ所に設置、約一〇四万人が入学した。四年制で、おもに小学校・実業補習学校に併設、修身公民科・教練を必修科目とし、普通科・職業科があった。

日本楽器争議
日本楽器従業員が待遇改善を要求して起こした争議。四月二六日、日本労働組合評議会傘下の浜松合同労働組合指導により、約一三〇〇人がストライキに入った。会社側は「評議会は共産党」などとして話し合いに応じず、かえって右翼団体を頼んで対抗。結局、組合側は仲介役の協調会に無条件で一任、三五〇人の解雇者を出して敗北した。

▲日本楽器争議支援のため、日本労働組合評議会本部に貼り出された壁新聞。

鉄道司法警察
刑事訴訟法改正により、森林・鉄道・監獄などの官吏に司法警察権が与えられたことによるもので、五月一日から実施。駅長・車掌区長を司法警察官、助役・車掌・鉄道手などを司法警察官吏とした。司法警察官吏の職務権限は、駅構内あるいは列車内で起きた事件についての現行犯の取り調べ、証拠物件の押収、事件の検察官への送致とされた。

北伐
蔣介石をリーダーとする国民革命軍が、中国北方に割拠する軍閥に対して行った、中国統一の戦い。七月一日、兵士一〇万人に出撃命令が下り、九日、進撃を開始した。軍閥は武漢三鎮に呉佩孚、浙江に孫伝芳、山西に閻錫山、陝西に馮玉祥、北京周辺に張作霖らが根拠地を構えており、その兵力は合わせて約八〇万人にも達した。しかし、国民革命軍は各地の農民・労働者の支持を得て、着々と目的に向かって前進していった。

トーキー映画
八月二六日、米・ワーナー映画が、世界初のトーキー映画「ドン・ファン」を公開実験。音声は効果音と音楽部分だけだったが大評判となり、人気にかげりが見えてきた映画再生のきっかけとなった。翌年には、台詞も音声で入る「ジャズ・シンガー」が公開されて大ヒット、一方でトーキーに向かない俳優が姿を消すなど、映画界は一気に激変。なお、日本の本格トーキー第一号は、昭和六年の五所平之助監督「マダムと女房」。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1926

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シト・プロ 有マックス 有マライカ 飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 結城順一 吉田忠正 張替政展

●写真協力
尾形光彦 影山光洋 影山智洋 福田健 福田俊二 松本龍 但馬憲 服部晶一郎 朝日新聞社 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 解放出版社 共同通信社 国際フォト 木挽社 出版ニュース社 G・I・P・Tokyo デジタルハウス ノーボスチ通信社 PPS 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス 明治屋 大宅壮一文庫 花王資料館 鹿沼市立川上澄生美術館 呉市企画部 海事博物館推進室 国立国会図書館 THE KOBAL COLLECTION 杉野学園 T.KITAHARA COLLECTION 東芝科学館 豊栄市博物館 日仏会館図書館 日本近代文学館 日本漫画資料館 ニューヨーク近代美術館フィルム・ライブラリー 福岡部落史研究会 法政大学大原社会問題研究所 Mary Evans Picture Library 松本英一事務所 吉川英治記念館

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1926
●大正天皇崩御と"元号誤報"
6月23日号
第2巻第23号 通巻66号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社講談社 郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23714-6/23 T1123714060562
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社